YAMAHA
⚠ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。
取扱説明書
FJR
FJR1300A
1MC-28199-J1

はじめに

JAU27254

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。
車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。
車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。
また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。
本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠	**安全にかかわる注意情報を示してあります。**
⚠警 告	**取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**
注 意	**取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**
要　点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。
● 車の正しい取り扱い方法
● 日常点検、定期点検整備
● 保証内容および保証期間
※ 車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。
※ 仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために 1-1
あなた自身と同乗者のために 1-1
歩行者と他の車のために 1-5
環境・住民の方との調和のために 1-6

各部の名称 2-1
左側面 2-1
右側面 2-2
運転装置と計器類 2-3

各部の取り扱いと操作 3-1
キーの取り扱い 3-1
イモビライザーシステム 3-1
メインスイッチ 3-2
警告灯と表示灯 3-3
クルーズコントロールシステム 3-6
マルチファンクションメーター 3-8
盗難警報器（別売アクセサリー）...... 3-19
D-mode（ドライブモード）............. 3-19
ハンドルスイッチ 3-20
ブレーキペダル 3-22
ABS 3-22
トラクションコントロール
　システム 3-23
フューエルタンクキャップ 3-25
燃料 3-26
シート 3-26
ライダーシートの高さ調整 3-27
小物入れ 3-29
アクセサリーボックス 3-30
ヘッドライトアジャスター 3-31
ハンドル位置の調整 3-31
カウリングベントの開閉のしかた ... 3-32
バックミラー 3-33
フロントフォークの調整 3-33
リヤクッションの調整 3-35
ブレーキレバー／
　クラッチレバーの握り調整 3-36
サイドスタンド 3-37
イグニッションサーキット
　カットオフシステム 3-37
DC ジャック 3-39

日常点検 4-1
日常点検の実施 4-1
日常点検箇所／点検内容 4-1

運転操作 5-1
エンジン始動 5-1
ギヤチェンジのしかた 5-2
ブレーキ 5-2
ならし運転 5-3
駐車 5-3

点検整備 6-1
点検整備の実施 6-1
サービスツール 6-2
カバーの取り外し、取り付け 6-2
エンジンオイル 6-5
ファイナルギヤオイルの交換時期 6-6
エンジンのかかり具合、
　異音の点検 6-6
低速、加速の状態の点検 6-6
冷却水 6-7
エアクリーナーエレメントの清掃 6-8
タイヤ 6-9
クラッチ 6-11
ブレーキレバーの遊び／
　ブレーキペダルの遊び、および
　ブレーキのきき具合の点検 6-12
ブレーキランプスイッチ 6-12
ブレーキパッドの点検 6-13
ブレーキ液量の点検 6-13
ブレーキ液の補給 6-14
車体各部の給油脂状態の点検 6-15
アンダーブラケットの
　取り付け状態の点検
　（ステアリングステム）................. 6-15
バッテリー 6-16
ヒューズ交換 6-17
灯火装置および方向指示灯の点検 6-19
運行において異常が認められた
　箇所の点検 6-19

お車の手入れ 7-1
洗車 7-1
アルミフレーム、
　キャストホイールの取り扱い 7-2
カウリングの取り扱い 7-2
保管のしかた 7-3
アフターケア用品について 7-3

製品仕様 8-1

ユーザー情報 9-1
二輪車を廃棄する場合は？ 9-1

サービスマニュアル（別売）の
紹介 9-2
車両情報 9-2

索引 10-1

安全運転のために

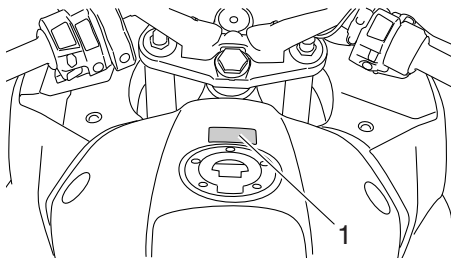
JAU27281

この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。
安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

JAU2737A

あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。
車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。

1. 安全項目ラベル

⚠ 警　告

- 取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- 違法改造はやめましょう。
- 定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは PSC または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっくり合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
  - 保護性の高い服で明るく目立つ色のもの
  - 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン

● 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
- ズボンのすそや袖口の広い服
- 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
- ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服

● 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。

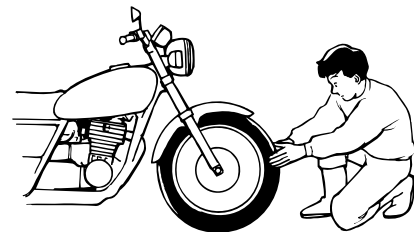
● 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

JWA11601

警 告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

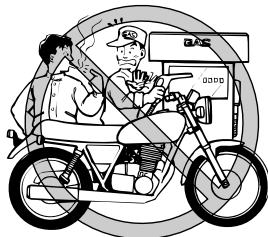
日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた日常点検を行ってください。また、法令で定められた 1 年、2 年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。

車の異状

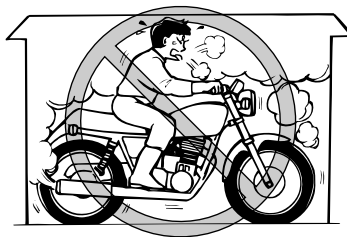
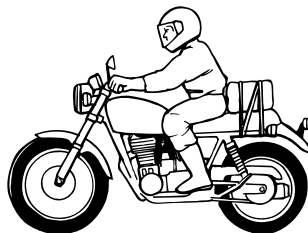
次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

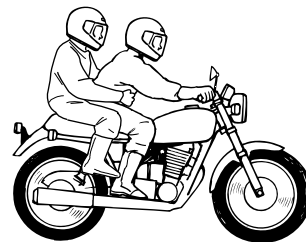
給油時は火気厳禁

ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。

風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。

荷物はしっかり固定する

- 荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。
- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

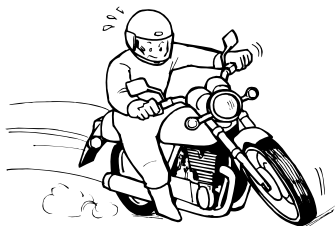
両手はハンドル、両足はフットレスト

- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。

乗車定員は 2 名

ただし、免許取得後 1 年未満の運転者は、法令により 2 人乗りはできません。

また、高速道路（2 人乗りが許可されている高速道路）においては、20 才以上で、免許取得後 3 年を経過した運転者でなければ 2 人乗りはできません。

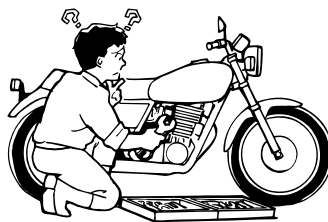
急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。

誤った方法でエンジンを停止しない

誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

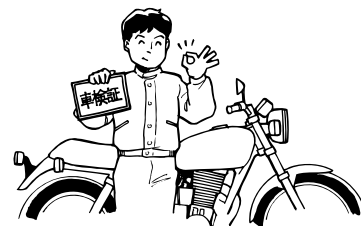
エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。

JCA15221

注 意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

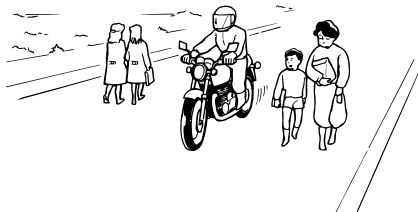
継続検査（車検）を受ける

二輪の小型自動車（251cm³ 以上）は、国で定める継続検査を受けなければ使用できません。また、初回の継続検査は新規登録日から 3 年後に受け、2 回目以降の継続検査はその後 2 年ごとに受けます。

検査の有効期間満了前に必ず、継続検査を受けてください。

JAU27504

歩行者と他の車のために

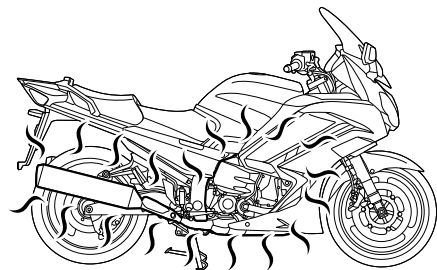
他の人への思いやり

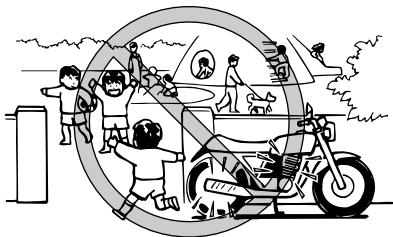
- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。

駐車

- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- 車から離れる前に、スタンドが確実にセットされているかを確認してください。

JWA12241

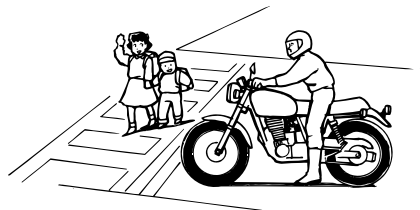
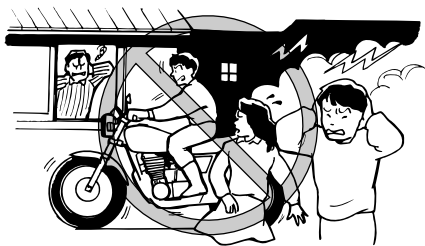
⚠ 警 告

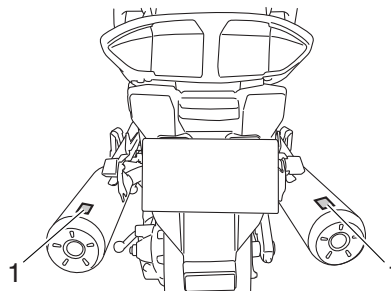
- **エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。**
- **駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。**
- **マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。**

昼間はヘッドライトを下向きに

この車両は自動昼間点灯仕様です。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

JAU27581

環境・住民の方との調和のために

住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。

特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。

違法改造はしない

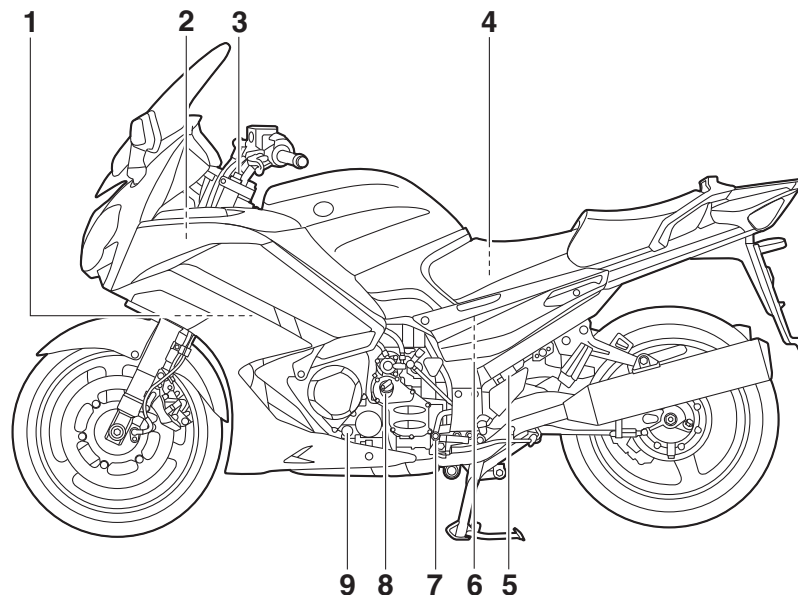
- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには “YAMAHA” マークが刻印されています。

1. “YAMAHA” マーク

環境への配慮

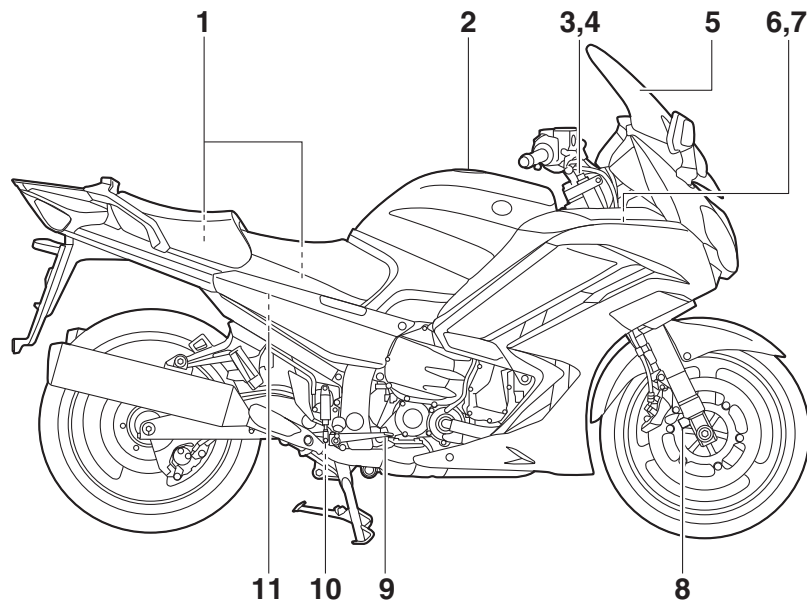
廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

各部の名称

JAU10411

左側面

1. リカバリータンク (P 6-7)
2. アクセサリーボックス（P3-30）
3. フロントフォークスプリングプリロードアジャスター（P3-33）
4. サービスツール（P6-2）
5. リヤクッション・スプリングプリロードアジャスター（P3-35）
6. エアクリーナーエレメント（P 6-8）
7. シフトペダル（P5-2）
8. オイル注入口（P6-5）
9. エンジンオイル点検窓（P6-5）

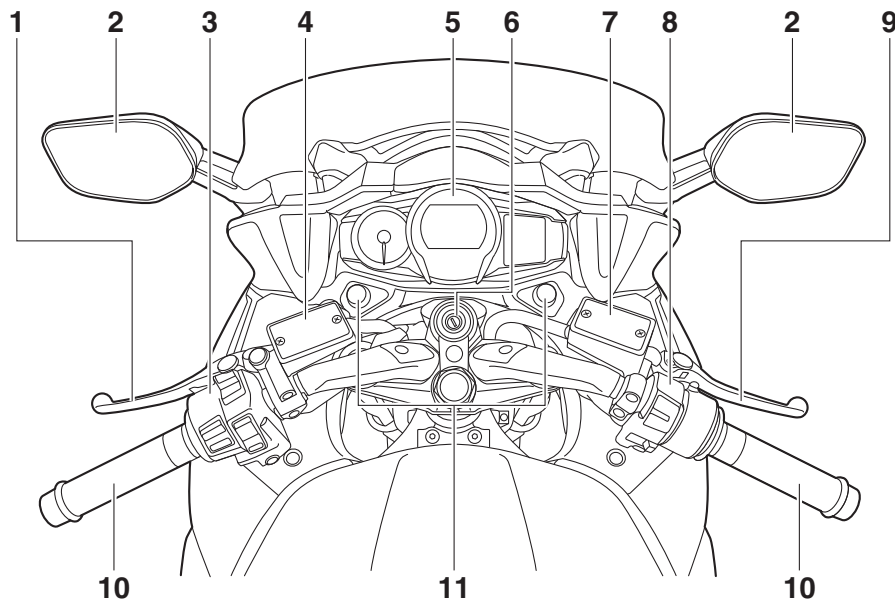
JAU10421

右側面

1. 小物入れ（P3-29）
2. フューエルタンクキャップ（P3-25）
3. フロントフォークスプリングプリロードアジャスター（P3-33）
4. フロントフォーク伸側減衰力アジャスター（P3-33）
5. ウインドシールド (P3-10)
6. ヒューズ（P6-17）
7. バッテリー（P6-16）
8. フロントフォーク圧側減衰力アジャスター（P3-33）
9. ブレーキペダル（P 3-22/6-12）
10. リヤクッション伸側減衰力アジャスター（P3-35）
11. リヤブレーキリザーバータンク（P6-13/P6-14）

各部の名称

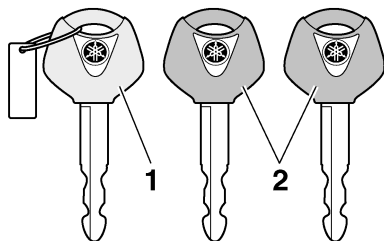
JAU10431

運転装置と計器類

2

1. クラッチレバー（P6-11）
2. バックミラー (P3-33)
3. ハンドルスイッチ（左）（P3-20）
4. クラッチリザーバータンク（P6-11）
5. マルチファンクションメーター（P3-8）
6. メインスイッチ / ハンドルロック（P3-2）
7. フロントブレーキリザーバータンク（P6-13/P6-14）
8. ハンドルスイッチ（右）（P3-20）
9. ブレーキレバー（P6-12）
10. グリップウォーマー（P3-10）
11. ヘッドライトアジャスター（P3-31）

JAU33073

キーの取り扱い

マスコット部が赤いメインキーが 1 本とマスコット部が黒いサブキーが 2 本あります。メインキーはサブキーのIDを登録するときに必要な大切なキーですので、普段は車の操作には使用しないでください。車の操作には、必ずサブキーを使用してください。

1. メインキー（赤）
2. サブキー（黒）

JCA12773

注 意

キーを取り扱うときには、下記の内容を必ず守ってください。

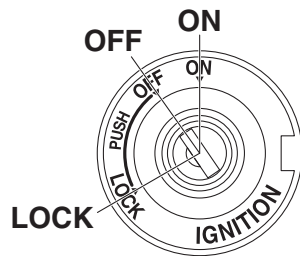
- **メインキーは大切に保管し、紛失しないよう注意してください。メインキーを紛失するとイモビライザーユニットにサブキーの ID を登録することができなくなります。また、3 本のキー全てを紛失した場合は、イモビライザーシステムの構成部品全てを交換しなければなりません。**
- **キーを水に浸けないでください。**
- **キーを高温になる場所に置かないでください。**
- **キーに磁気を帯びたものを近づけないでください。**
- **キーに電波を発信するものを近づけないでください。**
- **キーを落として強い衝撃を与えたり、重いものを載せたりしないでください。**
- **キーを削ったり、穴を開けたりして形状を変えないでください。**
- **キーを分解しないでください。**
- **複数のイモビライザーキー（この車のキーも含みます。）を同じキーリングにつけたり、メインスイッチに他のイモビライザーシステムを近づけたりしないでください。ID の認識を妨げ、エンジンの始動ができなくなることがあります。**
- **金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキーがカバーなどの部品に当たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または皮製のものをお勧めします。**

JAU26895

イモビライザーシステム

この車には、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。イモビライザーシステムとは、メインキーおよびサブキーにトランスポンダ（固有の ID を持った発信機）を内蔵しており、あらかじめ車両本体のイモビライザーユニットに登録されたIDのキー以外ではエンジンの始動ができないようにしたシステムです。（詳細は 3-5 ページを参照してください。）

3

JAU10462

メインスイッチ

メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入 / 切」、ハンドルロックを行います。

JWA11621

⚠ 警 告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JCA11972

注 意

エンジンをかけないでメインスイッチを ON のままにしたり、エンジン始動後アイドリング状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。

要 点

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

JAU10551

ON

全ての電気回路に電源が供給され、メーター灯、テールランプ、ナンバー灯とマーカーランプが点灯し、エンジンを始動させることができます。キーを抜き取ることはできません。

要 点

- エンジンが始動すると、ヘッドライトが自動的に点灯します。エンジンが止まってもメインスイッチを OFF にするまで点灯し続けます。
- スタータースイッチを押して、エンジンが始動しないときにもヘッドライトが点灯することがありますが、異常ではありません。

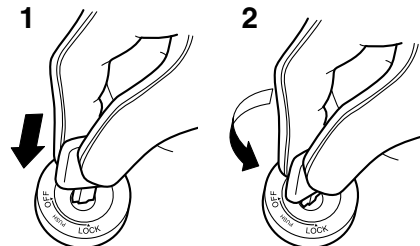
JAU46011

OFF

全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

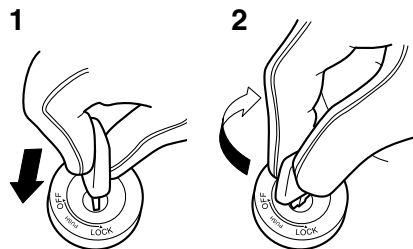
JAU10693

LOCK

ハンドルがロックされます。全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

<u>ハンドルロックのしかた</u>

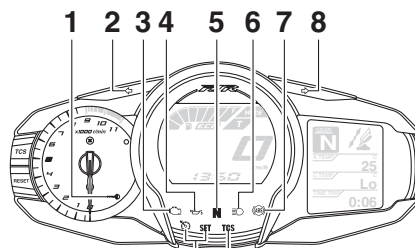
1. 押す
2. 回す

1. ハンドルを左または右にいっぱいに切ります。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。
3. キーを抜きます。

ハンドルロックの解除のしかた

1. 押す
2. 回す

LOCK の位置でキーを押しこみ、そのまま OFF まで回します。

JAU49398

警告灯と表示灯

1. イモビライザーシステム表示灯 “🔑”
2. 方向指示器表示灯（左）“⇦”
3. エンジン警告灯 “ ”
4. エンジンオイル量警告灯 “ ”
5. ニュートラルランプ “N”
6. ヘッドライト上向き表示灯 “≣D”
7. ABS 警告灯 “(ABS)”
8. 方向指示器表示灯（右）“⇨”
9. トラクションコントロールシステム表示／警告灯 “TCS”
10. クルーズコントロール表示灯

JAU11032

方向指示器表示灯 “⇦/⇨”

方向指示器に合わせて点滅します。

JAU11061

ニュートラルランプ “N”

ギヤがニュートラルのとき点灯します。

JAU11081

ヘッドライト上向き表示灯 “≣D”

ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

JAU11124

エンジンオイル量警告灯 “ ”

エンジンオイル量が少なくなると点灯します。エンジンオイル量を点検し、不足しているときは早めに補給してください。(6-5 ページ参照)

要　点

- メインスイッチを ON にしたとき、警告灯が約 2 秒間点灯し、その後消灯します。点灯しないときや消灯しないときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。
- エンジンオイル量が充分であっても、坂道を走行しているときや急な加減速を行ったときは警告灯が点滅することがありますが、これは異常ではありません。

JCA12951

注 意

- **何度も点滅したり、点灯したままになるときは、エンジンオイル量を点検してください。不足しているときは、早めに補給してください。オイル量が正常なときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**
- **警告灯が点灯したまま走行すると、故障の原因となります。**

JAU58400

クルーズコントロール表示灯

クルーズコントロールシステムが作動すると点灯します。クルーズコントロール表示灯について詳しくは、3-6 ページの説明を参照してください。

要　点

- メインスイッチを ON にしたとき、表示灯が約 2 秒間点灯し、その後消灯します。
- メインスイッチを ON にしたときに表示灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

JAU11535

エンジン警告灯 “ ”

エンジンの電気回路に異常が発生したとき、警告灯が点灯するか、点滅します。警告灯が点灯もしくは点滅したときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。（詳しくは 3-18 ページのマルチファンクションメーターの自己診断機能の説明を参照してください。）

要　点

- メインスイッチを ON にしたとき、警告灯が約 2 秒間点灯し、その後消灯します。点灯しないときや消灯しないときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。
- スタータースイッチを押している間、警告灯が点灯することがありますが、これは異常ではありません。

JAU59120

ABS 警告灯 “(ABS)”

走行中にABS警告灯が点灯または点滅したときは、ABS が正しく作動していないおそれがあります。このような場合、直ちにヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。（3-22 ページ参照）

警告灯の電気回路は、以下の手順に従って点検することができます。

1. スターター／エンジンストップスイッチを “ ” にセットし、メインスイッチを ON にします。
2. 警告灯が点灯し、10 km/h 以上の速度で走行したあと消灯することを点検します。
3. 警告灯が点灯しないか、点灯したまま消灯しない場合、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

JWA16041

⚠ 警　告

10 km/h 以上の速度で走行しても ABS 警告灯が消灯しない、または走行中に ABS 警告灯が点灯または点滅したときは、ブレーキシステムは通常のブレーキの状態になっています。上記のどちらかが起こった場合、または ABS 警告灯が全く点灯しない場合は、急ブレーキなどでホイールがロックしないよう、慎重にブレーキをかけてください。直ちにヤマハ販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。

要　点

スタータースイッチを押している間、警告灯が点灯することがありますが、これは異常ではありません。

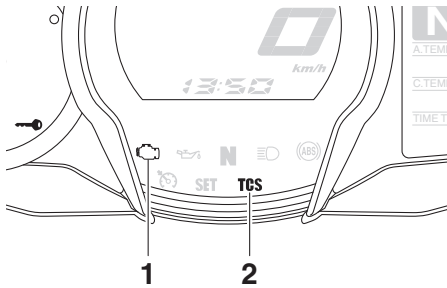
JAU54261

トラクションコントロールシステム表示／警告灯 “TCS”

トラクションコントロールシステムが作動すると点滅し、解除されると点灯します。

要　点

- メインスイッチを ON にしたとき、表示／警告灯が約 2 秒間点灯し、その後消灯します。
- メインスイッチを ON にしたときに表示／警告灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

走行中にトラクションコントロールシステムが解除された場合は、トラクションコントロールシステム表示／警告灯とエンジン警告灯が点灯します。（トラクションコントロールシステムについて詳しくは、3-23 ページの説明を参照してください。）

1. エンジン警告灯 “ ”
2. トラクションコントロールシステム表示／警告灯 “TCS”

トラクションコントロールシステム表示／警告灯のリセットは、3-24 ページの “ リセットするには”の手順に従って行ってください。

JAU54682

イモビライザーシステム表示灯 “ ”

この車は、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。メインスイッチを OFF にすると、イモビライザーシステムが機能し、メインスイッチ OFF 後、約 30 秒経過するとイモビライザーシステム表示灯が点滅を始めます。その後、約 24 時間経過すると表示灯は消えますが、イモビライザーシステムは機能しています。

要　点

表示灯の球切れや回路点検のため、メインスイッチを ON にすると表示灯がいったん点灯し、すぐに消灯します。点灯しないときや点灯したままになっているときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

自己診断機能

この車は、イモビライザーシステムの異常を知らせる自己診断機能を装備しています。メインスイッチが ON の状態であれば、エンジンが運転中か停止中かにかかわらず、検出した異常内容のコードをイモビライザーシステム表示灯の点灯または点滅で表示します。

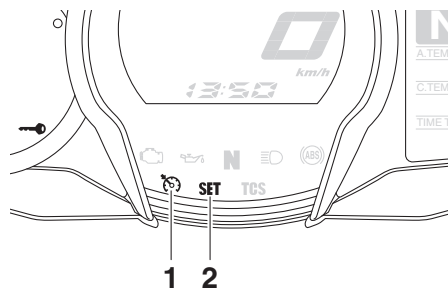
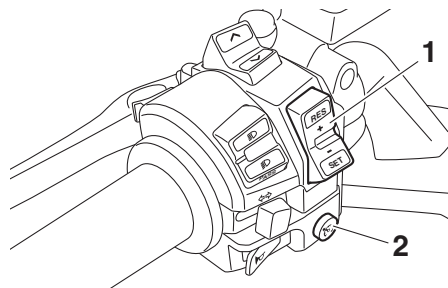
JCA12751

注　意

自己診断機能が働いたときは、ヤマハ販売店にて点検・整備を受けてください。

イモビライザーシステム表示灯が点滅し、情報ディスプレイにエラーコード 52 が表示されたときは、キーの ID の認識が妨げられた可能性があります。3 本のキー全てで、エンジンが始動できるかを確認してください。エンジンの始動ができないキーがあった場合には、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

要　点

他のイモビライザーキーをメインスイッチに近づけたり、複数のイモビライザーキーを同じキーリングにつけたりしないでください。（この車のキーも含みます。）ID の認識を妨げ、エンジンの始動ができないことがあります。

JAU54191

クルーズコントロールシステム

この車は、一定の速度を維持するためのクルーズコントロールシステムが装備されています。
クルーズコントロールシステムは、3 速、4 速、5 速ギヤで約 50 km/h ～ 100 km/h の間で走行しているときにのみ作動します。

JWA16341

警 告

- **クルーズコントロールシステムを誤って使用すると、制御を失い、事故につながる可能性があります。クルーズコントロールシステムは、交通の激しい場所、悪天候時、カーブの多い道、滑りやすい道、斜面、凹凸のある道、または砂利道で作動させないでください。**
- **上り坂または下り坂を走行する場合、クルーズコントロールシステムは、設定したクルージングスピードを維持できない可能性があります。**
- **クルーズコントロールシステムを誤って作動させないため、使用しない場合はスイッチを切ってください。クルーズコントロールシステム表示灯 “ ” がオフになっていることを確認してください。**

1. クルーズコントロールシステム表示灯 “ ”
2. クルーズコントロール設定表示灯 “SET”

1. クルーズコントロール設定スイッチ “RES+/SET–”
2. クルーズコントロール電源スイッチ “ ”

クルーズコントロールシステムの作動と設定

1. 左ハンドルにあるクルーズコントロール電源スイッチ “ ” を押します。クルーズコントロールシステム表示灯 “ ” が点灯します。
2. クルーズコントロール設定スイッチの “SET–” 側を押して、クルーズコントロールシステムを作動させます。現在の走行スピードが、クルージングスピードとして設定されます。クルーズコントロール設定表示灯 “SET” が点灯します。

設定したクルージングスピードの調整

クルーズコントロールシステムの作動中、クルーズコントロール設定スイッチの “RES+” 側を押すと、設定したクルージングスピードが増加し、“SET–” 側を押すと設定したクルージングスピードが減少します。

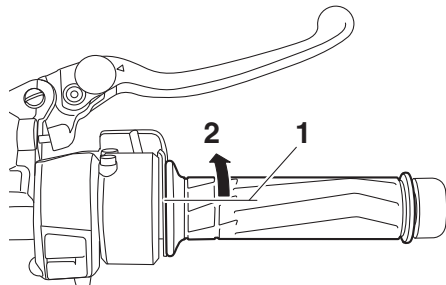
要 点

設定スイッチを 1 度押すごとに、設定スピードが約 2.0 km/h 変化します。クルーズコントロール設定スイッチの “RES+” 側または “SET–” 側を押したまま保持すると、スイッチを離すまで、スピードが連続的に増加または減少します。

走行スピードは、スロットルを使用して手動でも増加することができます。加速した後、設定スイッチの “SET–” 側を押すと、新しくクルージングスピードの設定ができます。新しくクルージングスピードの設定をしない場合、スロットルグリップを戻すと、車両は前回設定したクルージングスピードまで減速します。

クルーズコントロールシステムの停止

設定したクルージングスピードを取り消すには、次のいずれかの操作を行います。操作を行うと、“SET” 表示灯が消灯します。

- スロットルグリップを、全閉位置よりさらに減速方向に回します。

1. 全閉位置
2. クルーズコントロールを取り消す方向

- フロントブレーキまたはリヤブレーキをかけます。
- クラッチを切ります。

電源スイッチを押して、クルーズコントロールシステムをオフにします。“ ” 表示灯および “SET” 表示灯が消灯します。

要　点

クルーズコントロールシステムを停止させると、スロットルグリップを回さないと、すぐに走行スピードが減少します。

再開機能の使用方法

クルーズコントロールシステムを再び作動させるには、クルーズコントロール設定スイッチの “RES+” 側を押します。走行スピードが、前回設定したクルージングスピードに戻ります。“SET” 表示灯が点灯します。

JWA16351

警 告

前回設定したクルージングスピードが現在の走行状況に対して速すぎる場合、再開機能を使用することは危険です。

要　点

- 再開機能は、3速、4速、5速ギヤで約50 km/h ～ 100 km/h の間で走行しているときに作動します。
- システムの作動中に電源スイッチを押すと、システムは完全にオフになり、前回設定したクルージングスピードが消去されます。再開機能は、新しくクルージングスピードを設定するまで使用できません。

クルーズコントロールシステムの自動停止

このモデルのクルーズコントロールシステムは電子制御されており、その他のコントロールシステムとリンクされています。クルーズコントロールシステムは、以下の条件で自動的に停止します。

- クルーズコントロールシステムが、設定したクルージングスピードを維持できない場合。
- ホイールのスリップまたはホイールのスピンが検出された場合。（トラクションコントロールシステムをオフにしていない場合は、トラクションコントロールシステムが作動します。）
- スターター／エンジンストップスイッチが “ ” 位置に設定されている場合。
- エンジンがストールした場合。
- サイドスタンドが下げられた場合。

設定したクルージングスピードで走行中に、クルーズコントロールシステムが上記の条件で停止した場合、“ ” 表示灯は消灯し、“SET” 表示灯は 4 秒間点滅してから消灯します。

設定したクルージングスピードで走行していない場合は、スターター／エンジンストップスイッチを “ ” 位置に設定すると、エンジンがストールするほか、サイドスタンドが下げられると、“ ” 表示灯が消灯します（“SET” 表示灯は点滅しません）。

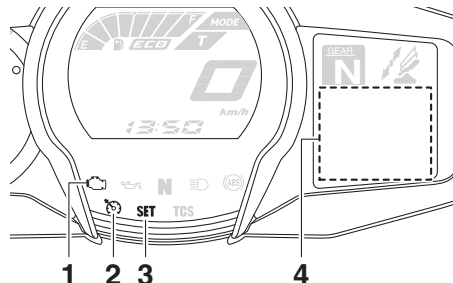
クルーズコントロールシステムが自動的に停止した場合は、停車してから車両が運転に適した状態であることを確認してください。クルーズコントロールシステムは、電源スイッチを使用して作動させてから再度使用してください。

要　点

上り坂または下り坂を走行する際、クルーズコントロールシステムは場合により、設定したクルージングスピードを維持できない可能性があります。

● 上り坂を走行する場合、実際の走行スピードは、設定したクルージングスピードを下回る可能性があります。この場合は、スロットルを使用して必要な走行スピードまで加速してください。
● 下り坂を走行する場合、実際の走行スピードは、設定したクルージングスピードを上回る可能性があります。この場合、設定スイッチを使用して、設定済のクルージングスピードを調整することはできません。

自己診断機能

1. エンジン警告灯 “ ”
2. クルーズコントロールシステム表示灯 “ ”
3. クルーズコントロール設定表示灯 “SET”
4. エラーコード表示

クルーズコントロールシステムは、いずれかのシステムに異常が検出された場合にも停止します。“SET” 表示灯が消灯し、“ ” 表示灯が点滅します。エンジン警告灯が点灯している場合、またはクルーズコントロールシステムが故障している場合は、クルーズコントロールシステムを使用できません。

JWA16361

警 告

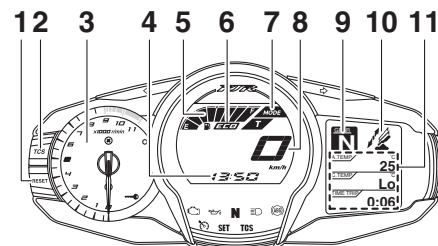
クルーズコントロールシステムが正常に作動していない場合、“ ” 表示灯が点滅します。この場合は、クルーズコントロールシステムをオフにして、ヤマハ販売店に点検を依頼してください。

JCA11591

注 意

ディスプレイにエラーコードが表示された場合、エンジンの損傷を防ぐために、できるだけ早く車両の点検を行ってください。

JAU54256

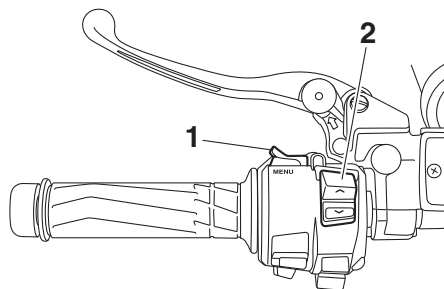
マルチファンクションメーター

1. “RESET” ボタン
2. “TCS” ボタン
3. タコメーター
4. 時計
5. 燃料計
6. エコ表示 “ECO”
7. ドライブモード表示
8. スピードメーター
9. ギヤポジション表示
10. ファンクションディスプレイ
11. 情報ディスプレイ

JWA12423

警 告

マルチファンクションメーターの設定変更をする前に、必ず車両を停止してください。走行中に設定の変更を行うと、操作に気をとられて事故を起こすおそれがあります。

要　点

セレクトスイッチ “∧/∨” およびメニュースイッチ “MENU” は左ハンドルにあります。これらのスイッチにより、マルチファンクションメーターの設定を変更できます。

1. メニュースイッチ “MENU”
2. セレクトスイッチ “∧/∨”

マルチファンクションメーターには以下の機能があります。

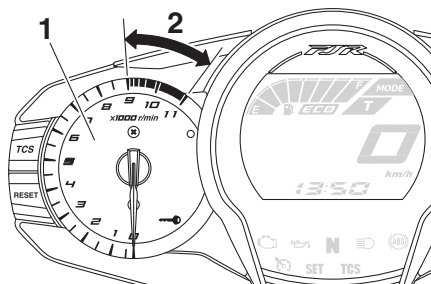
- スピードメーター
- タコメーター
- 時計
- 燃料計
- エコ表示
- ギヤポジション表示
- ドライブモード表示（選択されたドライブモードを表示します。）
- ファンクションディスプレイ（選択した機能を表示します。）
- 情報ディスプレイ（オドメーター表示などの各種情報を表示）
- 設定モードディスプレイ（情報ディスプレイに表示される項目を設定、選択、またはリセットします。）
- 自己診断機能

要　点

セレクトスイッチ “∧/∨”、メニュースイッチ “MENU”、“RESET” ボタンおよび “TCS” ボタンを押す前に、必ずメインスイッチを ON にしてください。

スピードメーター

車の速度を示します。

タコメーター

1. タコメーター
2. レッドゾーン

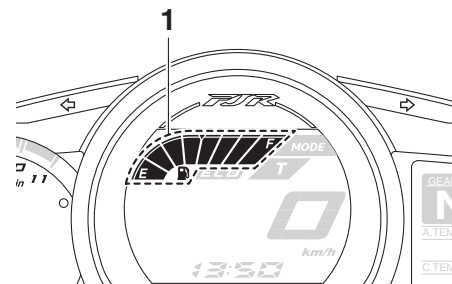
毎分のエンジン回転数を示します。

電気回路のチェックのため、メインスイッチを ON にすると、指針が一旦最大値まで動き、0 に戻ります。

JCA21840

注 意

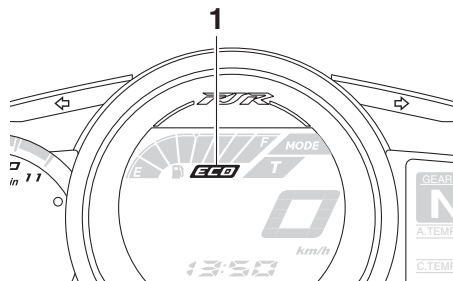
エンジン回転数がレッドゾーンに入らないように運転してください。
レッドゾーン : 9000 r/min 以上

燃料計

1. 燃料計

メインスイッチを ON にするとフューエルタンクのガソリンの残量を表示します。ガソリンの残量が減ると燃料計のセグメントが “E”（空）方向に消えていきます。最後のセグメントが点滅を始めたら、早めに補給してください。

メインスイッチを ON にすると、電気回路のテストのため、いったんすべてのセグメントが点灯します。

要　点

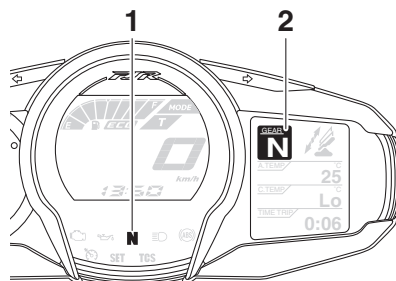
この燃料計には、自己診断機能が装備されています。電気回路に異常が検出された場合、すべてのセグメントが点滅を始めます。この場合は、ヤマハ販売店に電気回路の点検を依頼してください。

エコ表示

1. エコ表示 “ECO”

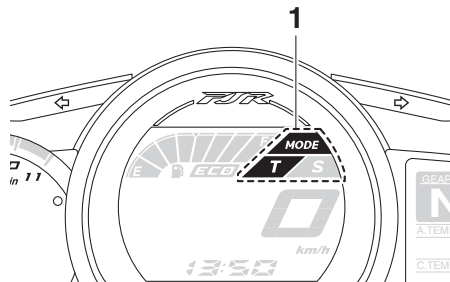
この表示は、環境にやさしい低燃費な方法で車両を運転している場合に点灯します。表示は車両が停止すると消灯します。

要　点

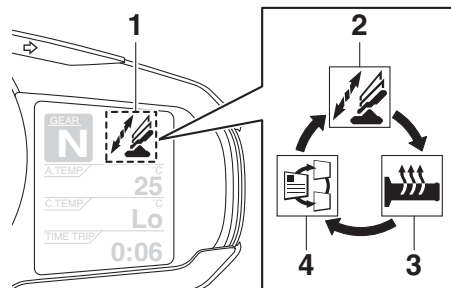
燃費を抑えるには、次のヒントを参考にしてください。
- 加速中にエンジン回転数を高くしない。
- 一定の速度で走行する。
- 速度に適したギヤを選択する。

ギヤポジション表示

1. ニュートラルランプ “**N**”
2. ギヤポジション表示

選択しているギヤポジションを表示します。ニュートラルの場合は、ニュートラルランプ “**N**” およびギヤポジション表示 “**N**” が表示されます。

ドライブモード表示

1. ドライブモード表示

ツーリングモード “T”、スポーツモード “S” のうち、選択されたドライブモードを表示します。（詳しくは 3-19 ページ、3-22 ページを参照してください。）

ファンクションディスプレイ

1. ファンクションディスプレイ
2. ウインドシールド調整機能
3. グリップウォーマー調整機能
4. 情報ディスプレイ表示選択機能

メニュースイッチ “MENU” を押すと、ウインドシールド調整機能、グリップウォーマー調整機能、および情報ディスプレイ表示選択機能の間で表示が切り替わります。

ウインドシールド位置の調整

ウインドシールドを上に動かすには、セレクトスイッチの “∧” 側を押してください。ウインドシールドを下に動かすには、セレクトスイッチの “∨” 側を押してください。

グリップウォーマーの調整

この車にはグリップウォーマーが装備されています。グリップウォーマーは、エンジン回転中にのみ使用できます。グリップウォーマー設定は 4 種類あります。

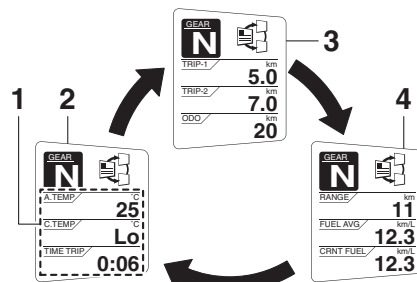
設定	表示
オフ	
低	
中	
高	

グリップウォーマーの温度を上げるには、セレクトスイッチの“∧”側を押してください。グリップウォーマーの温度を下げるには、セレクトスイッチの“∨”側を押してください。

JCA17931

注 意

- **グリップウォーマーを使用する場合は、必ずグローブを着用してください。**
- **外気温が 20°C 以上の場合は、グリップウォーマーを高設定に設定しないでください。**
- **ハンドルバーグリップまたはスロットルグリップが摩耗したり破損したりした場合は、グリップウォーマーの使用を止め、グリップを交換してください。**

情報ディスプレイの表示選択

1. 情報ディスプレイ
2. ディスプレイ 1
3. ディスプレイ 2
4. ディスプレイ 3

情報ディスプレイは 3 種類の表示があります。選択した情報ディスプレイの表示は、セレクトスイッチを押して切り替えることができます。

情報ディスプレイには、次の項目が表示されます。

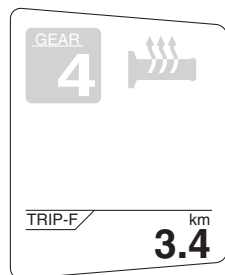
- オドメーター表示
- トリップメーター表示
- フューエルトリップメーター表示
- 推定航続距離表示
- 経過時間表示
- 外気温表示
- 水温表示
- 平均燃費表示
- 瞬間燃費表示

情報ディスプレイに表示される項目は、それぞれ選択できます。項目の設定や選択をするには 3-13 ページを参照してください。

オドメーター表示

トリップメーター表示

“TRIP-1” および “TRIP-2” では、最後にゼロに設定した地点からの走行距離が表示されます。

フューエルタンクに残った燃料が約 5.5 L になった場合、燃料計の最後のセグメントが点滅を始めます。さらに、情報ディスプレイは、自動的にフューエルトリップメーターモード “TRIP-F” に切り替わり、その地点からの走行距離の計測を始めます。

この状況でセレクトスイッチを押すと、次の順序で各種情報の表示が切り替わります。

TRIP-F → Display–1 → Display–2 → Display–3 → TRIP-F

トリップメーターをリセットするには、セレクトスイッチを使用して、トリップメーターが含まれる情報ディスプレイの表示を選択します。“RESET” ボタンを短時間押してトリップメーターを点滅させてから、“RESET” ボタンを再度押して、そのまま 2 秒以上押し続けてください。フューエルトリップメーターを手動でリセットしなかった場合、給油後 5 km 走行すると、自動的にリセットされ、元のモードに戻ります。

推定航続距離表示

現在の走行状態においてフューエルタンクの残りの燃料で走行できる距離が表示されます。

経過時間表示

TIME TRIP
0:06

キーを ON の位置に回してから経過した時間が表示されます。表示できる最長時間は、99:59 です。
この表示は、メインスイッチを OFF にすると、自動的にリセットされます。

要　点

“TIME–2” および “TIME–3” 経過時間表示もありますが、情報ディスプレイへの表示は設定できません。詳しくは、3-13 ページの「設定モード」を参照してください。

外気温表示

A.TEMP
°C
25

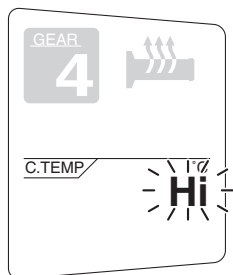
この表示では、–9 °C ～ 50 °C の外気温が 1°C 刻みで表示されます。表示される温度は、外気温と一致していない場合があります。

要　点

- 外気温が–9°Cを下回った場合にも、–9°Cと表示されます。
- 外気温が50°Cを上回った場合にも、50°Cと表示されます。
- 温度指示値は、低速走行時（約 20 km/h）または信号や踏切での停車中は正しく表示されない場合があります。

水温表示

C.TEMP
°C
Lo

水温を表示します。水温は、気象条件およびエンジン負荷により変化します。
“Hi” が点滅した場合、車両を止めてからエンジンを停止し、エンジンを冷ましてください。

要　点

“Hi” メッセージの点滅中は、選択した情報ディスプレイの表示を切り替えることができません。

JCA10022

注　意

エンジンがオーバーヒートした場合、エンジンの使用を続けないでください。

平均燃費表示

FUEL AVG　km/L
12.3

平均燃費表示モード “km/L”、“L/100km” では、最後に表示をリセットしてからの平均燃費が表示されます。

- “km/L” 表示では、1.0 L の燃料で走行できる平均距離が表示されます。
- “L/100km” 表示では、100 km の走行に必要な燃料の平均量が表示されます。

平均燃費表示をリセットするには、セレクトスイッチを使用して、平均燃費表示が含まれる情報ディスプレイの表示を選択します。“RESET” ボタンを押して平均燃費表示を点滅させてから、“RESET” ボタンを 2 秒以上押してください。

要　点

平均燃費表示のリセット後は、車両が 1 km 走行するまで “_ _._” と表示されます。

JCA15474

注　意

故障がある場合、常に “– –.–” と表示されます。ヤマハ販売店で車の点検を依頼してください。

瞬間燃費表示

CRNT FUEL　km/L
12.3

瞬間燃費表示モード “km/L”、“L/100km” では、現在の走行状態における燃費が表示されます。

- “km/L” 表示では、1.0 L の燃料で走行できる距離が表示されます。
- “L/100km” 表示では、100 km の走行に必要な燃料の量が表示されます。

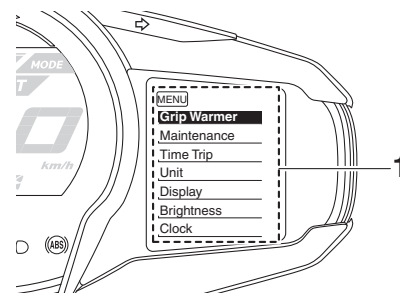
要　点

10 km/h未満の速度で走行している場合は、“_ _._” と表示されます。

JCA15474

注　意

故障がある場合、常に “– –.–” と表示されます。ヤマハ販売店で車の点検を依頼してください。

設定モード

1. 設定モード表示

要　点

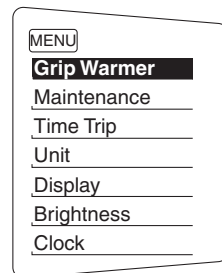
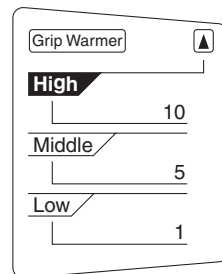
- このモードの設定を変更するには、ギヤをニュートラルに入れ、車両を停止する必要があります。

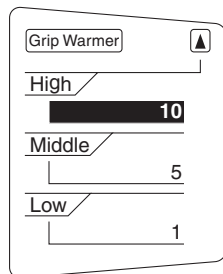
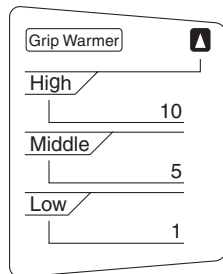
- ギヤを入れて発進したり、メインスイッチを OFF にしたりすると、設定モードは、設定内容がすべて保存された上で終了します。

メニュースイッチ “MENU” を 2 秒以上押し続けると、設定モードに入ります。設定モードを終了して通常の表示に戻すには、メニュースイッチ “MENU” を再度 2 秒以上押し続けてください。

表示	説明
Grip Warmer	この機能により、グリップウォーマーの低、中、および高の温度設定を 10 レベルで設定できます。
Maintenance	この機能により、“OIL” オイル交換間隔（走行距離）や “FREE-1” および “FREE-2” メンテナンス間隔を確認したりリセットしたりできます。
Time Trip	この機能により “TIME–2” および “TIME–3” 機能を確認したりリセットしたりできます。これらのタイムトリップには、メインスイッチを ON にしてからの総経過時間が表示されます。メインスイッチを OFF にすると、タイムトリップの計測は止まりますがリセットは行われません。表示できる最長時間は、99:59 です。 タイムトリップが 99:59 に達した場合、自動的に 0:00 にリセットされ、計測が継続されます。
Unit	この機能により、燃費表示の単位を “L/100km” と “km/L” の間で切り替えられます。
Display	この機能により、情報ディスプレイの 3 種類の表示画面における表示項目を変更できます。
Brightness	この機能により、マルチファンクションメーターのパネルの明るさを、屋外の明るさの状態に合わせて調整できます。
Clock	この機能により、時計を設定できます。
All Reset	この機能により、オドメーターおよび時計を除く、すべての項目をリセットできます。

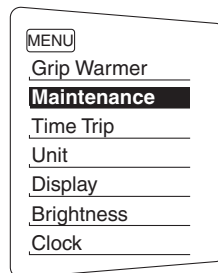
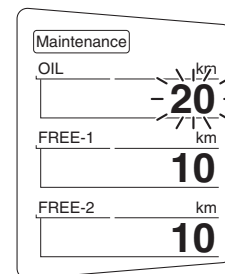
グリップウォーマー温度レベルの調整

1. セレクトスイッチを使用して、“Grip Warmer” を反転表示させせます。

2. メニュースイッチ “MENU” を押します。グリップウォーマー設定表示内の “High” が点滅します。

3. メニュースイッチ “MENU” を押します。高設定の温度レベルが点滅を始めます。

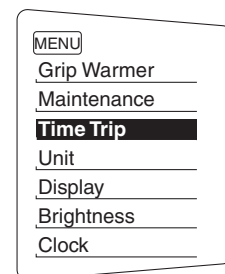
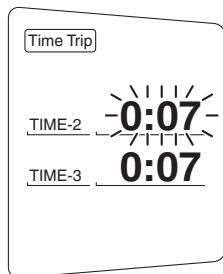
セレクトスイッチを使用して温度レベルを設定してから、メニュースイッチ“MENU”を押します。“High”が点滅を始めます。

4. セレクトスイッチを使用して “Middle” または“Low”を反転表示させてから、高設定と同様の手順で設定を変更します。
5. 設定の変更が終わったら、セレクトスイッチを使用して“▲”を反転表示させてから、メニュースイッチ“MENU”を押して設定モードメニューに戻します。

要　点

この設定では、温度を 10 レベルで設定できます。

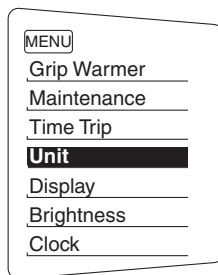
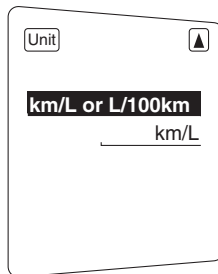
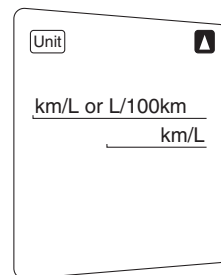
メンテナンスカウンターのリセット

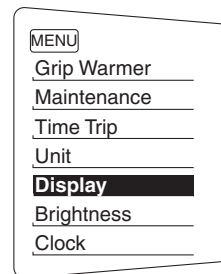
1. セレクトスイッチを使用して、“Maintenance”を反転表示させます。

2. メニュースイッチ“MENU”を押してから、“RESET”ボタンを押してリセットする項目を選択します。

3. 選択した項目が点滅している間に、“RESET”を 2 秒以上押します。
4. メニュースイッチ“MENU”を押して、設定モードメニューに戻します。

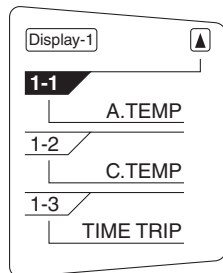
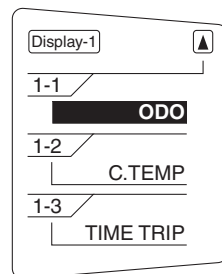
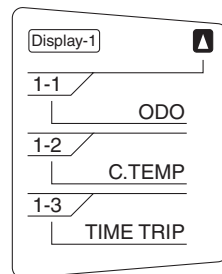
“TIME–2”および“TIME–3”の確認とリセット

1. セレクトスイッチを使用して、“Time Trip”を反転表示させます。

2. メニュースイッチ “MENU” を押して、“TIME–2” および “TIME–3” を表示させます。タイムトリップをリセットするには、“RESET” ボタンを押してリセットする項目を選択します。

3. 選択した項目が点滅している間に、“RESET” を 2 秒以上押します。
4. メニュースイッチ “MENU” を押して、設定モードメニューに戻します。

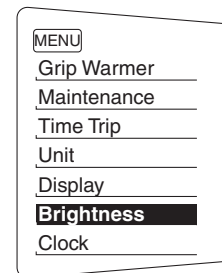
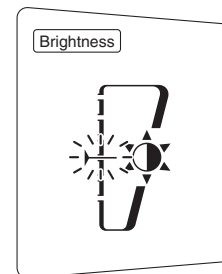
単位の選択

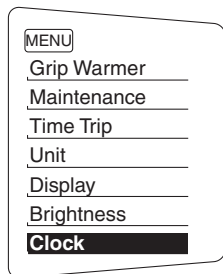
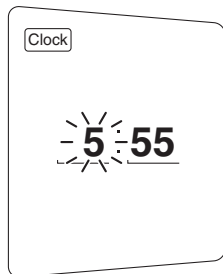
1. セレクトスイッチを使用して、“Unit” を反転表示させます。

2. メニュースイッチ “MENU” を押します。

3. メニュースイッチ “MENU” を押し、セレクトスイッチを使用して “L/100km” または“km/L”を選択してから、メニュースイッチ “MENU” を再度押します。
4. セレクトスイッチを使用して “▲” を反転表示させてから、メニュースイッチ “MENU” を押して、設定モードメニューに戻します。

表示項目の選択

1. セレクトスイッチを使用して、“Display” を反転表示させます。

2. メニュースイッチ “MENU” を押し、セレクトスイッチを使用して変更する表示を反転表示させてから、メニュースイッチ “MENU” を再度押します。

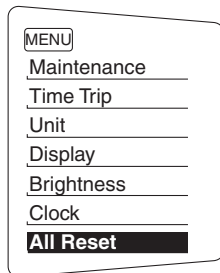
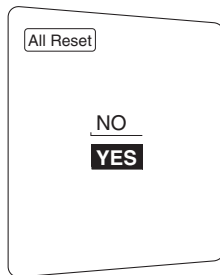
3. セレクトスイッチを使用して変更する項目を反転表示させてから、メニュースイッチ “MENU” を押します。

4. セレクトスイッチを使用して表示させる項目を選択してから、メニュースイッチ “MENU” を押します。

5. 設定の変更が終わったら、セレクトスイッチを使用して “▲” を反転表示させてから、メニュースイッチ “MENU” を押して前の表示に戻します。

6. セレクトスイッチを使用して “▲” を反転表示させてから、メニュースイッチ “MENU” を押して、設定モードメニューに戻します。

メーターパネルの明るさ調整

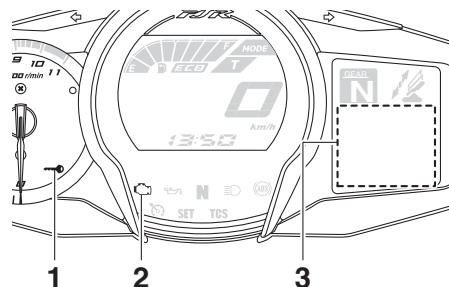
1. セレクトスイッチを使用して、“Brightness” を反転表示させせます。

2. メニュースイッチ “MENU” を押します。
3. セレクトスイッチを使用して適切な明るさレベルを選択してから、メニュースイッチ “MENU” を押して、設定モードメニューに戻します。

時計の調整

1. セレクトスイッチを使用して、“Clock” を反転表示させせます。

2. メニュースイッチ “MENU” を押します。
3. ＜時＞の表示が点滅したら、セレクトスイッチを使用して＜時＞を設定します。

4. “MENU” を押すと、＜分＞の表示が点滅します。
5. セレクトスイッチを使用して、＜分＞を設定します。
6. メニュースイッチ “MENU” を押して、設定モードメニューに戻します。

すべての表示項目のリセット

1. セレクトスイッチを使用して、“All Reset” を反転表示させせます。

2. メニュースイッチ “MENU” を押します。
3. セレクトスイッチを使用して “YES” を反転表示させてから、メニュースイッチ “MENU” を押します。

要　点

オドメーターおよび時計はリセットできません。

自己診断機能

1. イモビライザーシステム表示灯 “🔑”
2. エンジン警告灯 “ ”
3. エラーコード表示

このモデルには電気回路の自己診断機能が備わっています。これらの回路に異常が検出された場合、エンジン警告灯が点灯し、情報ディスプレイにエラーコードが表示されます。

情報ディスプレイにエラーコードが表示された場合は、コード番号をメモし、ヤマハ販売店に点検を依頼してください。

自己診断機能によって、イモビライザーシステムの異常も検出されます。

イモビライザーシステムに異常が検出された場合、メインスイッチを ON にすると、イモビライザーシステム表示灯が点滅し、情報ディスプレイにエラーコードが表示されます。
情報ディスプレイにエラーコード 52 が表示されたときは、キーの ID の認識が妨げられた可能性があります。3 本のキー全てで、エンジンが始動できるかを確認してください。エンジンの始動ができないキーがあった場合には、お買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

要　点

他のイモビライザーキーをメインスイッチに近づけたり、複数のイモビライザーキーを同じキーリングにつけたりしないでください。（この車のキーも含みます。）ID の認識を妨げ、エンジンの始動ができないことがあります。

JCA11591

注 意

ディスプレイにエラーコードが表示された場合、エンジンの損傷を防ぐために、できるだけ早く車両の点検を行ってください。

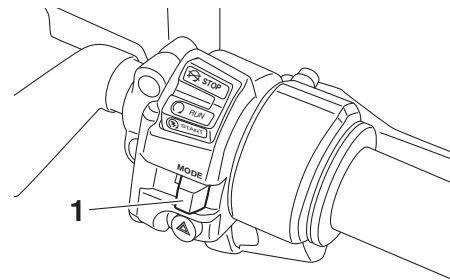
JAU12333

盗難警報器（別売アクセサリー）

この車には、別売アクセサリーの盗難警報器を装着することができます。装着については、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU49432

D-mode（ドライブモード）

D-mode は電子制御により、 2 つの走行モードを選択できるシステムです。
ドライブモードスイッチを左側にスライドするごとに、モードが切り替わります。（詳細は 3-22 ページを参照してください。）

1. ドライブモードスイッチ “MODE”

要　点

ドライブモードスイッチをご使用になる前に、各モードの特長と操作内容を充分理解してから操作してください。

ツーリングモード “T”

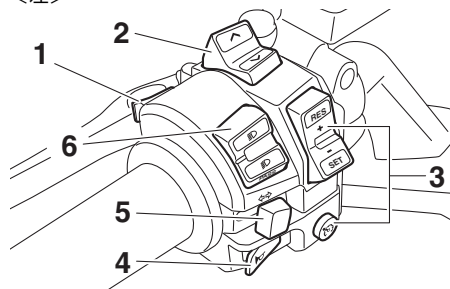
ツーリングモード “T” は、さまざまな走行条件に適したモードです。
スムーズな走行フィーリングが低速から高速まで楽しめるモードです。

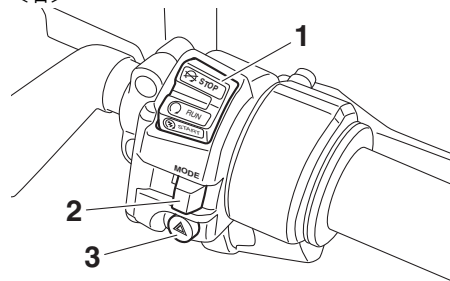
スポーツモード “S”

スポーツモードは、ツーリングモードに対して、よりスポーティなエンジンレスポンスを低中速域で楽しめるモードです。

JAU1234H

ハンドルスイッチ

＜左＞

1. メニュースイッチ “MENU”
2. セレクトスイッチ “∧/∨”
3. クルーズコントロールスイッチ
4. ホーンスイッチ “📯”
5. 方向指示器スイッチ “⇦/⇨”
6. ヘッドライト上下切り替え / パッシングライトスイッチ “≣D/≣D/PASS”

＜右＞

1. スターター／エンジンストップスイッチ “Ⓢ/◯/⊗”
2. ドライブモードスイッチ “MODE”
3. ハザードスイッチ “⚠”

JAU54201

ヘッドライト上下切り替え / パッシングライトスイッチ “≣D/≣D/PASS”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えたり、パッシング（スイッチを押している間、ヘッドライトの上向きも点灯）させるスイッチです。

≣D（上向き）：遠くを照らします。

≣D（下向き）：近くを照らします。

要　点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

ヘッドライトの配光が下向きのときに “PASS” 側を押すと、ヘッドライトの上向きも点灯します。先行車の追い越しなどで、他車に合図をするときに使用します。

要　点

ヘッドライト上下切り替えスイッチが “≣D” のときは使用できません。

JAU12461

方向指示器スイッチ “⇦/⇨”

進路変更の合図に使用します。
操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。
消灯するときは、スイッチを押します。
⇨：右側の方向指示灯が点滅します。
⇦：左側の方向指示灯が点滅します。

JWA11641

警　告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JCA11983

注　意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。正規のワット数以外のものを使用すると、正常に作動しません。

JAU12501

ホーンスイッチ “ホーン”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要　点

必要なときにのみ使用してください。

JAU54211

スターター／エンジンストップスイッチ “スタート/◯/⊠”

スターターでエンジンを始動するには、このスイッチを “◯” に合わせてから、スイッチの “スタート” 側を押してください。

JCA11882

注　意

- **スターターモーターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。**
- **エンジンを始動させる前に、5-1 ページの始動手順を参照してください。**

非常時に、エンジンをすぐに停止させるには “⊠” にします。通常は “◯” にしておきます。

JWA17700

警　告

非常時にスターター／エンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

JCA20770

注　意

- **非常時にスターター／エンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、必ずメインスイッチを OFF にしてください。ON のままですと、バッテリーあがりの原因となります。**
- **走行中に、スターター／エンジンストップスイッチを “◯” → “⊠” → “◯” にしないでください。エンジンの回転が不円滑となり、エンジン不調の原因となります。**

要　点

“⊠” にすると、エンジンは始動できません。

JAU33811

ハザードスイッチ “⚠”

メインスイッチを ON にした状態でスイッチを押し、ハザードランプを点灯させます（全ての方向指示器が点滅します）。
ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。

JCA11891

注　意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

JAU12781

クルーズコントロールスイッチ

クルーズコントロールシステムの説明については、3-6 ページを参照してください。

JAU54231

メニュースイッチ “MENU”

このスイッチは、マルチファンクションメーターのファンクションディスプレイと設定モード表示の設定を行うときに使用します。
詳しくは、3-8 ページのマルチファンクションメーターを参照してください。

JAU54221

セレクトスイッチ “∧/∨”

このスイッチはファンクションディスプレイと設定モード表示の設定を行うときに使用します。
詳しくは 3-8 ページのマルチファンクションメーターを参照してください。

JAU54691

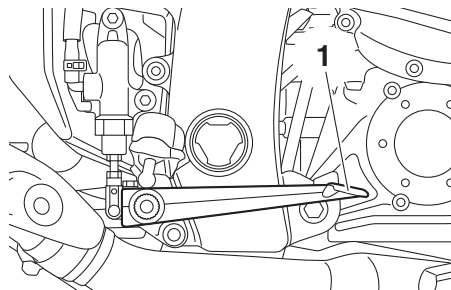
ドライブモードスイッチ “MODE”

JWA15341

警告

走行中はドライブモードスイッチを操作しないでください。

ドライブモードスイッチを左側にスライドするごとに、ツーリングモード “T” とスポーツモード “S” が切り替わります。
ドライブモードを切り替えるときは、スロットルグリップを閉じてください。
選択されたモードは、マルチファンクションメーターに表示されます。(3-10 ページ参照)
クルーズコントロールシステム作動中にドライブモードを変更することはできません。

JAU39542

ブレーキペダル

1. ブレーキペダル

ブレーキペダルは、車体の右側にあります。
この車は、ユニファイドブレーキシステムを装備しています。
ブレーキペダルを操作するとリヤブレーキが作動すると共にフロントブレーキが作動し、ブレーキレバーを操作するとフロントブレーキが作動します。
ブレーキペダルのみ操作した場合とブレーキレバーのみ操作した場合では制動力が異なるため、ブレーキの効き具合に違いがありますので、効果的な制動力を得るためには、ブレーキペダルとブレーキレバーの両方を同時に操作してください。

JAU54532

ABS

この車の ABS（アンチロックブレーキシステム）は、フロントブレーキとリヤブレーキに独立して働くデュアルエレクトロニックコントロールシステムを特徴としています。
ABS は ECU（エレクトロニックコントロールユニット）によってモニターされており、ECU が故障を検知した場合には通常のブレーキの状態になります。

JWA15363

警告

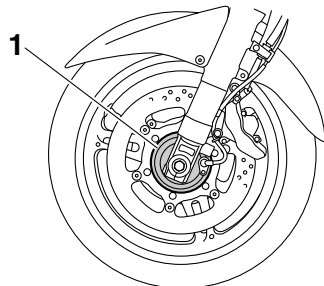
- **ABS は制動距離を短くする装置ではありません。**
- **未舗装路や砂利道など路面の状況により、ABS のない車に比べて制動距離が長くなることがあります。速度はひかえめにし、車間距離を充分にとってください。**

要点

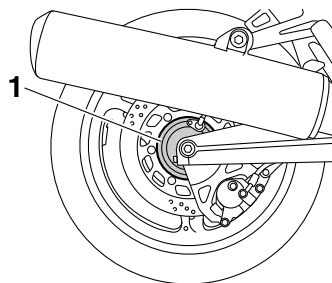
- ABS が作動していても、ブレーキは通常の方法で使用できます。ブレーキレバーまたはブレーキペダルに振動が感じられるかもしれませんが、故障ではありません。
- このABSには、ABSが作動している状態（ブレーキレバーまたはブレーキペダルに振動を感じる）を体感できるテストモードがあります。ただし、特殊工具が必要となりますので、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA16831

注 意

永久磁石や帯磁したピックアップツール、帯磁したドライバーなどは、フロントホイールハブまたはリヤホイールハブに近づけないでください。ホイールハブに装備されたマグネチックローターが損傷し、ABS とユニファイドブレーキシステムの性能が低下するおそれがあります。

1. フロントホイールハブ

1. リヤホイールハブ

JAU54271

トラクションコントロールシステム

トラクションコントロールシステムは、未舗装路や濡れた路面のような滑りやすい路面で加速時の駆動力を効率良く路面に伝達する働きをします。後輪の滑り始め（空転）をセンサーが検出すると、駆動力が得られるまで、トラクションコントロールシステムはエンジン出力を制御します。トラクションコントロールシステムが作動すると、トラクションコントロールシステム表示／警告灯 “TCS” が点滅して運転者に知らせます。

要 点

トラクションコントロールシステムが作動すると、エンジン音や排気音がわずかに変化することがあります。

JWA15432

警 告

トラクションコントロールシステムは、道路の状況に合わせた適切な走行をするための機能ではありません。またトラクションコントロールシステムは、スピードが出過ぎたまま曲がり角に進入するときや、車体を大きく傾斜させた状態での急な加速、ブレーキ中に起こるトラクションの低下やフロントホイールのスリップを防ぐことができません。他の車と同じように、滑りやすい路面に進入するときは注意して走行し、特に滑りやすい路面の走行はやめてください。

メインスイッチを“ON”にすると、トラクションコントロールシステムが自動的にオンになります。
トラクションコントロールシステムを手動でオンまたはオフにできるのは、メインスイッチが“ON”位置にあり、車両が停車している場合のみです。

要　点

車両が、泥や砂などの軟らかい地面にとらわれた場合、トラクションコントロールシステムをオフにして、リヤホイールが抜け出せるようにします。

JCA16801

注　意

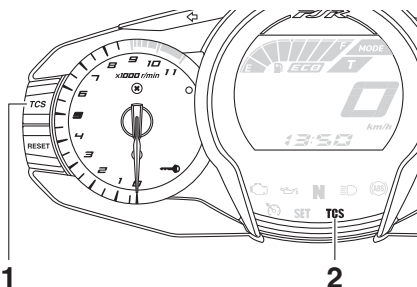
必ず指定タイヤを使用してください。(6-9 ページ参照) 指定サイズ以外のタイヤを使用すると、トラクションコントロールシステムはタイヤの回転を正確に制御することができません。

トラクションコントロールシステムのオン／オフ

JWA15441

⚠ 警　告

トラクションコントロールシステムの設定を変更する前に、必ず車両を停止してください。走行中に設定を変更すると、運転に集中できなくなり、事故のリスクを増加させる可能性があります。

マルチファンクションメーターユニットにある“TCS”ボタンを 2 秒以上押すとトラクションコントロールシステムが解除されます。トラクションコントロールシステム表示／警告灯“TCS”が点灯します。
トラクションコントロールシステムをオンにするには、“TCS”ボタンを再度押してください。“TCS”表示灯／警告灯が消灯します。

1. “TCS”ボタン
2. トラクションコントロールシステム表示／警告灯“TCS”

リセットするには

トラクションコントロールシステムは、次の状況になると解除されます。

- メインスタンドが下ろされており、メインスイッチが“ON”位置にある状態で、リヤホイールが回転した場合。
- 走行中に前輪または後輪が地面から離れたとき
- 後輪が過度に空転したとき

トラクションコントロールシステムが解除された場合、トラクションコントロールシステム“TCS”表示／警告灯とエンジン警告灯が点灯します。

<u>トラクションコントロールシステムのリセット</u>

メインスイッチを“OFF”にします。1 秒以上待ってから、メインスイッチを“ON”に戻します。トラクションコントロールシステム“TCS”表示／警告灯が消灯してシステムが作動します。車の速度が 20 km/h に達したときにエンジン警告灯が消灯します。リセット後、トラクションコントロールシステム“TCS”表示／警告灯またはエンジン警告灯が点灯したままでも走行可能ですが、できるだけ早くヤマハ販売店に点検整備を依頼してください。

JCA17732

注　意

- **磁気を帯びたもの（帯磁したピックアップツール、帯磁したドライバーなど）は、フロントホイールハブに近づけないでください。ホイールハブに装備されたセンサーやローターが損傷し、トラクションコントロールシステムの性能が低下するおそれがあります。**
- **センサーやローターが損傷しないように注意してください。**

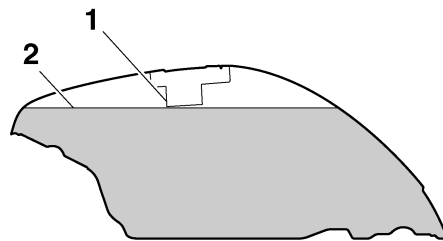
JAU13075

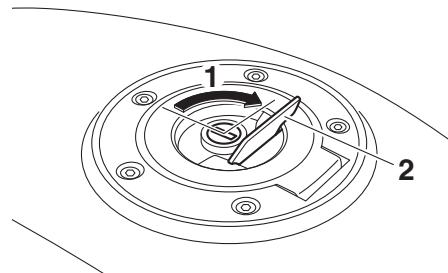
フューエルタンクキャップ

JWA12172

⚠ 警 告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- **給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。**
- **フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があり、ヤケドするおそれがあります。**
- **給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。**
- **給油は、必ず屋外で行ってください。**
- **セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。**
- **給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。**
- **給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。**

1. フィラーチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクキャップの開けかた

1. 解除
2. ロックカバー

1. ロックカバーを開けます。
2. キーをロックに差し込み、時計方向に 1/4 回してロックを解除します。
3. フューエルタンクキャップを開けます。

フューエルタンクキャップの閉めかた

1. キーをロックに差し込んだ状態でフューエルタンクキャップを押して閉めます。
2. キーを反時計方向に回してロックし、抜き取ります。
3. ロックカバーを閉めます。

要 点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを閉めることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく閉めないと、キーを抜き取ることはできません。

JAU31461

燃料

JAU28313

指定燃料

指定燃料：
無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：
約 25.0 L

JCA12512

注 意

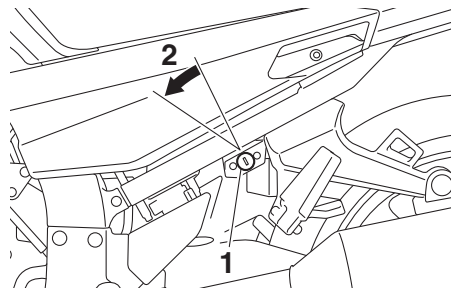
- **必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。**
- **こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。**
- **タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。**

JAU39496

シート

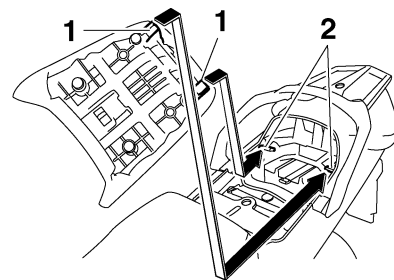
タンデムシート

タンデムシートの取り外しかた

1. キーをシートロックに差し込み、反時計方向に回します。

1. シートロック
2. 解除

2. タンデムシートの前部を少し持ち上げ、前方向にずらしながらタンデムシートを取り外します。

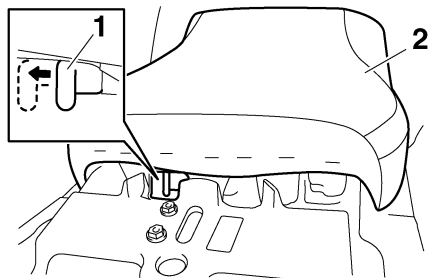
タンデムシートの取り付けかた

1. タンデムシートの後部にある突起を図のようにしてシートホルダーに差し込みます。タンデムーシートの前部を押し、タンデムシートをロックします。

1. 突起
2. シートホルダー

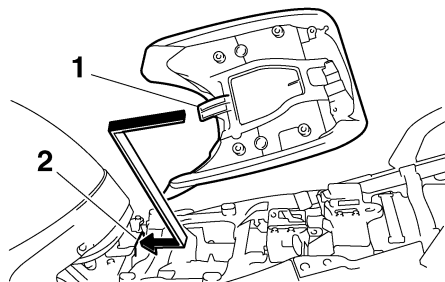
2. キーを抜き取ります。

ライダーシート

ライダーシートの取り外しかた

1. タンデムシートを取り外します。
2. ライダーシート後部の下にあるライダーシートロックレバーを図のように左に押し、ライダーシートを取り外します。

1. ライダーシートロックレバー
2. ライダーシート

ライダーシートの取り付けかた

1. ライダーシートの前部にある突起を図のようにしてシートホルダーに差し込みます。

1. 突起
2. シートホルダー

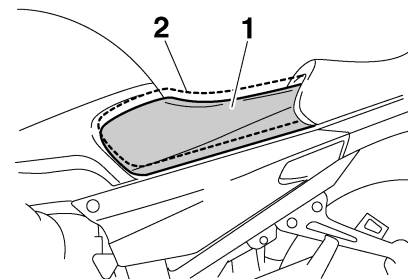
2. ライダーシートの後部を押し、ライダーシートをロックします。
3. タンデムシートを取り付けます。

要　点

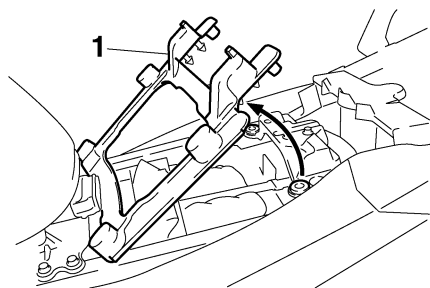
- 走行前に、必ず、シートが確実にロックされているか確認してください。
- ライダーシートの高さを調整して、乗車姿勢を変更できます。（次の項目を参照してください。）

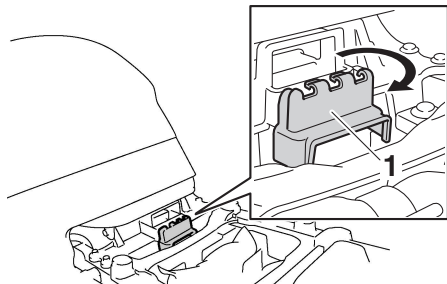
JAU39633

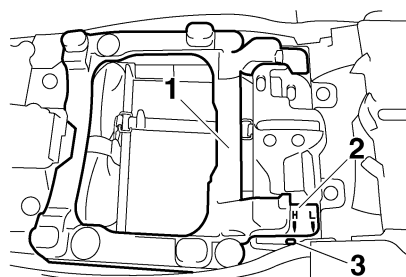
ライダーシートの高さ調整

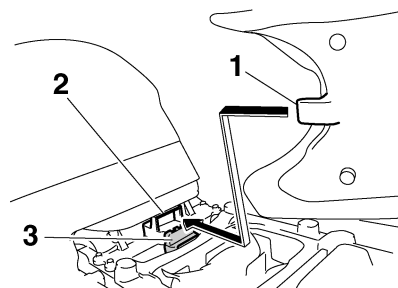
ライダーシートの高さは、運転者の好みに合わせて 2 つの位置のうちどちらかに調整することができます。
ライダーシートは、出荷時に低い位置に調整されています。

1. 低い位置
2. 高い位置

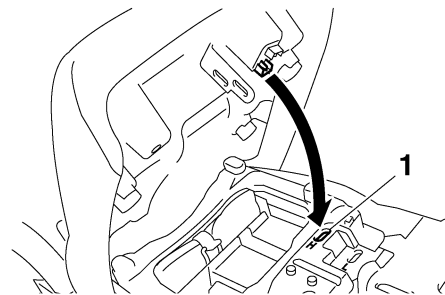
ライダーシートの高さを高い位置に変更するには

1. ライダーシートを取り外します。（3-26 ページ参照）
2. ライダーシートハイトアジャスターを上方向に引いて取り外します。

1. ライダーシートハイトアジャスター

3. 図のように、ライダーシートホルダーカバーを低い位置に移動します。

1. ライダーシートホルダーカバー

4. “H”マークと合マークが合うようにライダーシートハイトアジャスターを取り付けます。

1. ライダーシートハイトアジャスター
2. “H” マーク
3. 合マーク

5. 図のように、ライダーシート前方の突起をシートホルダー B に差し込みます。

1. 突起
2. シートホルダー B（高い位置用）
3. ライダーシートホルダーカバー

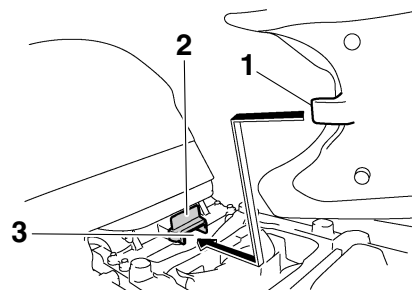
6. 図のように、ライダーシート底部の突起を “H” 位置の溝に合わせてから、ライダーシート後部を押し下げて、所定の位置にロックします。

1. “H” 位置の溝

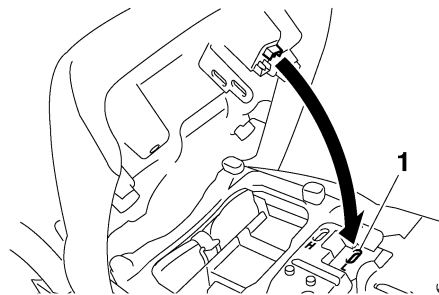
7. タンデムシートを取り付けます。

ライダーシートの高さを低い位置に変更するには

1. ライダーシートを取り外します。（3-26 ページ参照）
2. ライダーシートハイトアジャスターを上方向に引いて取り外します。
3. ライダーシートホルダーカバーを高い位置に移動します。
4. “L” マークと合マークが合うようにライダーシートハイトアジャスターを取り付けます。

1. ライダーシートハイトアジャスター
2. “L” マーク
3. 合マーク

5. 図のように、ライダーシート前方の突起をシートホルダー A に差し込みます。

1. 突起
2. ライダーシートホルダーカバー
3. シートホルダー A（低い位置用）

6. 図のように、ライダーシート底部の突起を “L” 位置の溝に合わせてから、ライダーシート後部を押し下げて、所定の位置にロックします。

1. “L” 位置の溝

7. タンデムシートを取り付けます。

要　点

走行前に、シートが正しく固定されていることを確認してください。

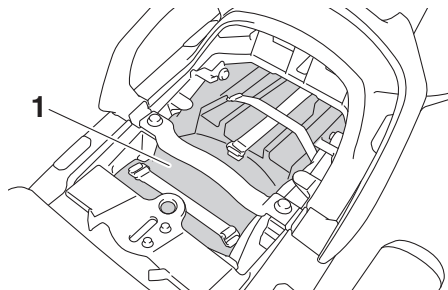
JAU39474

小物入れ

この車には 2 つ小物入れがあります。

小物入れ A

1. 小物入れ A

ライダーシートの下に小物入れ A があります。（3-26 ページ参照）

小物入れ B

1. 小物入れ B

タンデムシートの下に小物入れ B があります。（3-26 ページ参照）

JWA17690

警 告

以下の荷重制限を越えないでください。
- **小物入れ A：1 kg**
- **小物入れ B：3 kg**

JCA12972

注 意

小物入れを使用する時は以下の点に注意してください。
- **洗車をすると中に水が入ることがあります。大切な物は、ビニール袋などに入れて収納してください。**
- **濡れた物は、ビニール袋に入れてから収納してください。濡れたまま収納すると、小物入れ内にカビなどが発生することがあります。**
- **貴重品やこわれやすい物は入れないでください。**
- **小物入れ内は直射日光などで温度が高くなります。熱の影響を受けやすい物は入れないでください。**

要 点

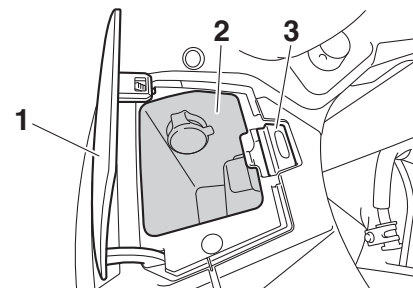
- 車から離れるときは、必ずシートをロックしてください。
- キーを小物入れ内に入れたままシートを閉じると、ロックされて開けられなくなります。注意してください。

JAU39482

アクセサリーボックス

アクセサリーボックスはメーターのそばにあります。

アクセサリーボックスの開けかた

1. メインスイッチにキーを差し込み、ON にします。
2. アクセサリーボックスボタンを押し、アクセサリーボックスリッドを開けます。

1. アクセサリーボックスリッド
2. アクセサリーボックス
3. アクセサリーボックスボタン

3. バッテリーあがりを防ぐため、キーを OFF にしてください。

アクセサリーボックスの閉めかた

1. アクセサリーボックスリッドを閉めます。
2. キーを抜き取ります。

JCA11802

注 意

熱に弱い物をアクセサリーボックスに収納しないでください。アクセサリーボックス内は、エンジンの熱や直射日光によって高温になります。

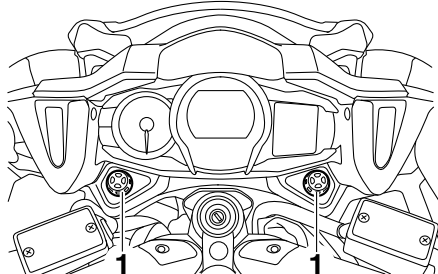
JWA11422

警 告

- **アクセサリーボックスに積む荷物は、荷重制限 0.3 kg を越えないでください。**

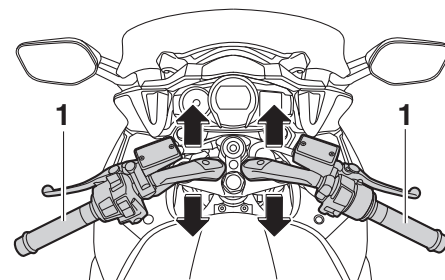
JAU39612

ヘッドライトアジャスター

ヘッドライトアジャスターは、ヘッドライトビームの高さを上下に変更する場合に使用します。ヘッドライトビームの高さ調整はヤマハ販売店に依頼してください。

1. ヘッドライトアジャスター

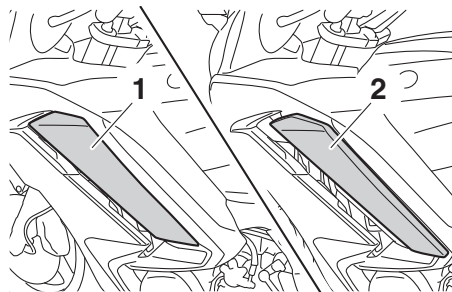
JAU39642

ハンドル位置の調整

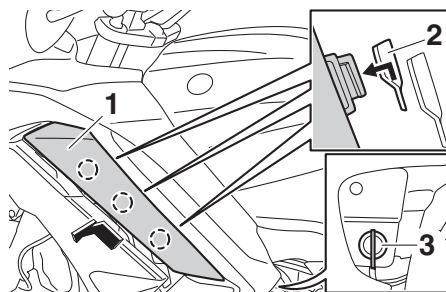
ハンドルは、運転者の好みに合わせて 3 つの位置のうちいずれかに調整することができます。ハンドル位置の調整はヤマハ販売店に依頼してください。

1. ハンドル

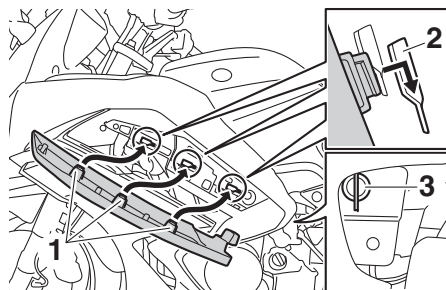
JAU54151

カウリングベントの開閉のしかた

カウリングベントは、走行環境に合わせてより多く通気するため、20 mm 開くことができます。

1. 全閉位置
2. 開位置

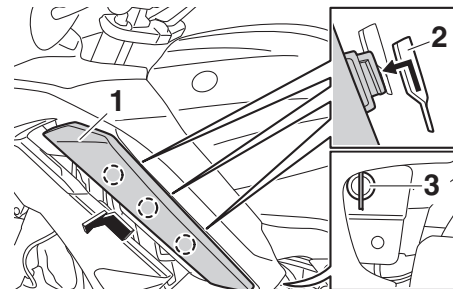
カウリングベントの開けかた

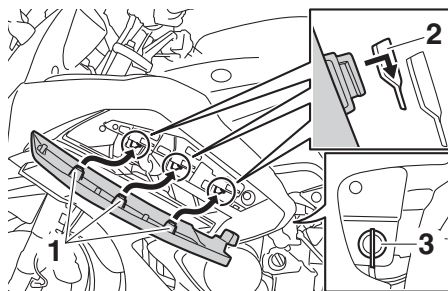
1. クイックファスナーを取り外します。
2. カウリングベントパネルを前方にスライドさせ、突起を下側の溝から外してから、パネルを引き抜きます。

1. カウリングベントパネル
2. 下側の溝
3. クイックファスナー

3. 突起を上側の溝に差し込んでから、パネルを後方にスライドさせます。

1. 突起
2. 上側の溝
3. クイックファスナー

4. クイックファスナーを取り付けます。

カウリングベントの閉じかた

1. クイックファスナーを取り外します。
2. カウリングベントパネルを前方にスライドさせ、突起を上側の溝から外してから、パネルを引き抜きます。

1. カウリングベントパネル
2. 上側の溝
3. クイックファスナー

3. 突起を下側の溝に差し込んでから、パネルを後方にスライドさせます。

1. 突起
2. 下側の溝
3. クイックファスナー

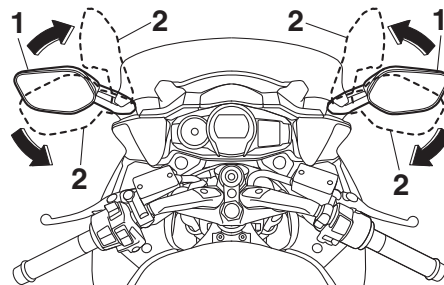
4. クイックファスナーを取り付けます。

要　点

走行前に、カウリングベントパネルが正しく取り付けられていることを確認してください。

JAU39672

バックミラー

この車のバックミラーは、狭いスペースで駐車するために前方または後方に折りたたむことができます。乗車する前に、バックミラーを元の位置に折り返してください。

1. 乗車するときの位置
2. 駐車するときの位置

JWA14372

警 告

乗車する前には、必ずバックミラーを元の位置に折り返すようにしてください。

JAU54141

フロントフォークの調整

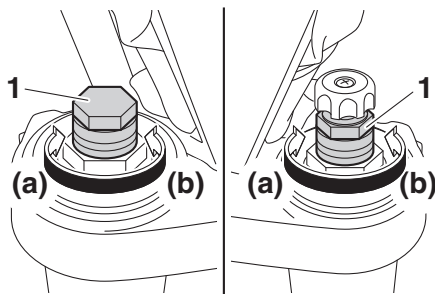
左右のフロントフォークには、スプリングプリロードアジャスターが装備されています。右側フロントフォークには、伸側減衰力アジャスターおよび圧側減衰力アジャスターが装備されています。

JWA14671

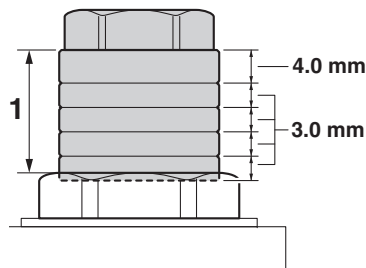
警 告

スプリングプリロードアジャスターは左右同じ位置に調整してください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

スプリングプリロード

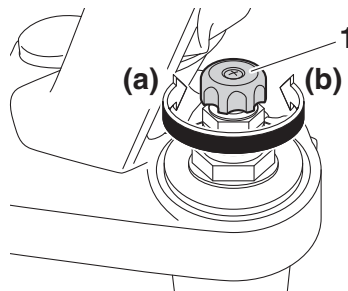
スプリングプリロードを大きくし、サスペンションを硬くするには、左右のフロントフォークのスプリングプリロードアジャスターを (a) 方向に回します。スプリングプリロードを小さくし、サスペンションを軟らかくするには、左右のフロントフォークのスプリングプリロードアジャスターを (b) 方向に回します。

1. スプリングプリロードアジャスター

要　点

スプリングプリロード設定は、図に示されたセット長 A を測定することで判断します。セット長Aを短くするとスプリングプリロードが大きくなり、セット長 A を長くすると、スプリングプリロードが小さくなります。

1. セット長 A

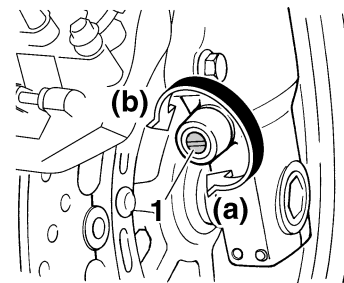
スプリングプリロード：
最小（ソフト）：
15.0 mm
標準：
10.0 mm
最大（ハード）：
0.0 mm

伸側減衰力

伸側減衰力は右側フロントフォークでしか行なえません。
伸側減衰力を強めるには、伸側減衰力アジャスターを (a) 方向に回します。伸側減衰力を弱めるには、伸側減衰力アジャスターを (b) 方向に回します。
（アジャスターを (a) 方向にいっぱいに回してから、(b) 方向に戻して初めに節度があるところが 1 段目です。）

1. 伸側減衰力アジャスター

伸側減衰力：
最小（ソフト）：
16 段
標準：
12 段
最大（ハード）：
1 段

圧側減衰力

圧側減衰力は右側フロントフォークでしか行なえません。
圧側減衰力を強めるには、圧側減衰力アジャスターを (a) 方向に回します。圧側減衰力を弱めるには、圧側減衰力アジャスターを (b) 方向に回します。
（アジャスターを (a) 方向にいっぱいに回してから、(b) 方向に戻して初めに節度があるところが 1 段目です。）

1. 圧側減衰力アジャスター

圧側減衰力：
最小（ソフト）：
21 段
標準：
11 段
最大（ハード）：
1 段

JCA11911

注 意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

要　点

アジャスターは調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

JAU14917

リヤクッションの調整

リヤクッションには、スプリングプリロードアジャスターと伸側減衰力アジャスターが装備されています。

JCA16571

注 意

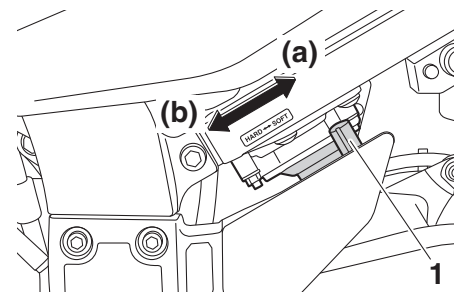
調整範囲を超えて、アジャスターを動かさないでください。

JWA12441

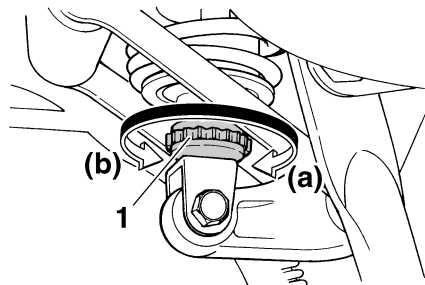
警 告

シートに人を乗せて調整をしないでください。車が動き、手などに思わぬケガをすることがあります。

スプリングプリロード

一人乗りの場合、スプリングプリロードアジャスターを (a) 方向に動かします。二人乗りの場合、スプリングプリロードアジャスターを (b) 方向に動かします。

1. スプリングプリロードアジャスター

伸側減衰力

伸側減衰力を強め、サスペンションを硬くするには、伸側減衰力アジャスターを (a) 方向に回します。伸側減衰力を弱め、サスペンションを軟らかくするには、アジャスターを (b) 方向に回します。
（アジャスターを（a）方向にいっぱいに回してから、（b）方向に戻して初めに節度があるところが 1 段目です。）

1. 伸側減衰力アジャスター

伸側減衰力：
最小（ソフト）：
20 段
標準：
12 段
最大（ハード）：
3 段

要　点

アジャスターは調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

JWA12451

警　告

切り替えるときに異常がありましたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA10222

警　告

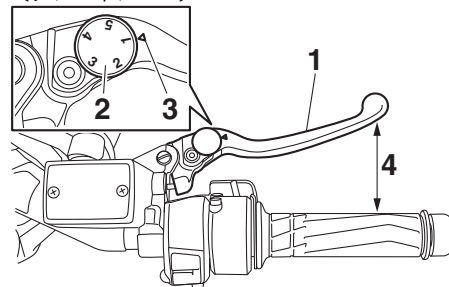
リヤクッションユニットには高圧窒素ガスが封入されています。リヤクッションユニットを取り扱う場合は、必ず下記のことを厳守してください。

- **シリンダー本体を加工または分解しないでください。**
- **リヤクッションユニットを火気の中に投げ込まないでください。高温にさらすとガスが膨張し、爆発するおそれがあります。**
- **シリンダーを変形させたりダメージを与えないでください。これを行うと、減衰力が低下するおそれがあります。**
- **損傷または変形したリヤクッションユニットを、ご自分で処分しないでください。リヤクッションユニットの処分が必要なときは、ヤマハ販売店にご相談ください。**
- **点検整備については、必ずヤマハ販売店にて実施してください。**

JAU47982

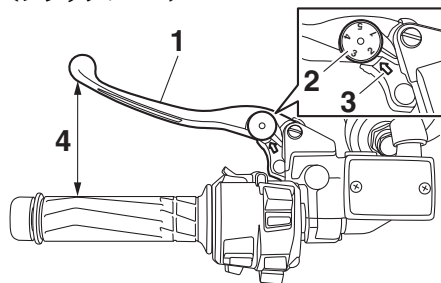
ブレーキレバー／クラッチレバーの握り調整

手の大きさに合わせて、ブレーキレバー、クラッチレバーの握り幅が 5 段階に調整できます。
握り幅の調整は、レバーを前側に押しながらアジャスターを回して行います。

<ブレーキレバー>

1. ブレーキレバー
2. アジャスター
3. “△” マーク
4. 握り幅

要　点

アジャスターの溝と “△” マークを、必ず合わせてください。

<クラッチレバー>

1. クラッチレバー
2. アジャスター
3. 矢印マーク
4. 握り幅

要　点

アジャスターの数字と矢印マークを、必ず合わせてください。

JAU15306

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要　点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。(サイドスタンドスイッチについては次の項目を参照してください。)

JWA10242

⚠ 警 告

サイドスタンドを下ろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない(上がった状態にならない)場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

JAU54491

イグニッションサーキットカットオフシステム

イグニッションサーキットカットオフシステム(サイドスタンドスイッチ、クラッチスイッチおよびニュートラルスイッチを含む)には次の機能があります。

- ギヤがニュートラル以外で、サイドスタンドが上げてあるが、クラッチレバーを握っていないとき、エンジンは始動できません。
- ギヤがニュートラル以外で、クラッチレバーを握っているが、サイドスタンドが下がっているとき、エンジンは始動できません。
- ギヤがニュートラル以外で、サイドスタンドを下げるとエンジンが停止します。

イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って定期的に点検してください。

JWA11551

⚠ 警 告

- **点検中はメインスタンドを立ててください。**
- **点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。**

エンジンが停止した状態で：
1. サイドスタンドを下ろします。
2. スターター／エンジンストップスイッチを“◯”にします。
3. メインスイッチをONにします。
4. ギヤをニュートラルに入れます。
5. スターター／エンジンストップスイッチの“⑤”側を押します。
エンジンは始動しましたか？

はい　　**いいえ**

ニュートラルスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが始動した状態のまま：
6. サイドスタンドを上げます。
7. クラッチレバーを握ります。
8. ギヤを入れます。
9. サイドスタンドを下ろします。
エンジンは停止しましたか？

はい　　**いいえ**

サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが停止した後：
10. サイドスタンドを上げます。
11. クラッチレバーを握ります。
12. スターター／エンジンストップスイッチの“⑤”側を押します。
エンジンは始動しましたか？

はい　　**いいえ**

クラッチスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

イグニッションサーキットカットオフシステムは正常です。
走行可能です。

警告

- **点検中はメインスタンドを立ててください。**
- **点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。**

JAU39656

DC ジャック

JWA14361

⚠ 警 告

感電または短絡を防止するため、DC ジャックを使用しない場合は、必ずキャップを取り付けてください。

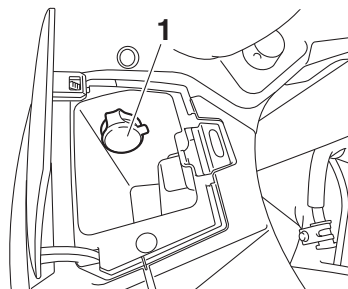
JCA15432

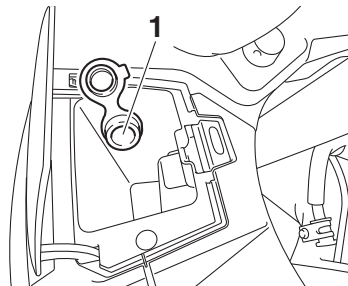
注 意

DC ジャックに接続するアクセサリーは、エンジンが停止している場合には使用しないでください。また、接続負荷が 30 W (2.5 A) を決して超えないようにしてください。ヒューズ切れや、バッテリーあがりを起こす可能性があります。

この車には、アクセサリーボックスに DC ジャックが搭載されています。
DC ジャックに接続した 12 V のアクセサリーは、メインスイッチが ON 位置にある場合に使用できます。ただし、エンジン回転中にのみ使用してください。

DC ジャックの使いかた

1. アクセサリーボックスリッドを開きます。(3-30 ページ参照)
2. メインスイッチを OFF にします。
3. DC ジャックキャップを取り外します。

1. DC ジャックキャップ

4. アクセサリーをオフにします。
5. アクセサリーのプラグをDC ジャックに差し込みます。

1. DC ジャック

6. メインスイッチを ON にし、エンジンを始動します。(5-1 ページ参照)
7. アクセサリーをオンにします。

JAU15599

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JWA12032

警 告

- **日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。)

JAU30142

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、6-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。(※)
エンジン	● 冷却水の量が適当であること。(※) ● エンジンオイルの量が適当であること。(※) ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。(※) ● 低速、加速の状態が適当であること。(※)
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

(注)
※ 印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期(長距離走行時や洗車、給油後など)に実施をしてください。

JWA11733

警 告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
- **エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。**
- **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。**
- **走行して点検するときは、交通状況に注意してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JAU47152

要　点

この車は、以下の機構を装備しています。
- メインスイッチが ON のときに車体が転倒した状態になると、エンジンを停止させます。このとき、メーターにエラーコード 30 を表示しますが、故障ではありません。また、この機構が働くと、車体を起こしてもエンジン停止の制御が継続されるため、スターターモーターは回転しても、エンジンを始動することができません。そのまま始動操作を続けると、バッテリー上がりの原因になることがありますので、このような状態になった場合はメインスイッチを一旦 OFF にして、再度 ON にするリセット操作をしてください。このリセット操作を行うと、エラーコード 30 も表示されなくなります。
- 車両が停止した状態で 20 分間以上エンジンがかかったままになっていると、エンジンを停止させます。このとき、メーターにエラーコード 70 を表示しますが、故障ではありません。この機能でエンジンが停止した場合は、スタータースイッチを押せば再始動が可能です。

JAU54171

エンジン始動

JWA11562

⚠ 警 告

- **エンジンを始動するときには、3-37 ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検してください。**
- **サイドスタンドを下ろした状態で走行しないでください。**

1. メインスイッチを ON にし、スターター／エンジンストップスイッチが“◯”にセットされていることを確認します。
2. ギヤをニュートラルにします。

要　点

ギヤをニュートラルにしたとき、ニュートラルランプが点灯しない場合、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

3. スロットルを完全に閉じます。
4. スターター／エンジンストップスイッチの“⑤”側を押して、エンジンを始動します。

要　点

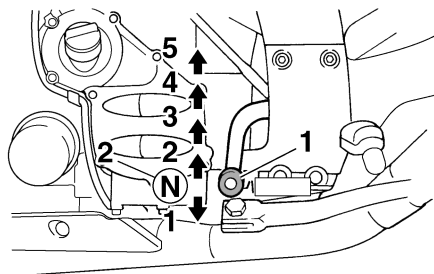
スターター／エンジンストップスイッチで 5 秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒位休ませてからスタータースイッチを押してください。

JCA15992

注 意

- **エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。**
- **長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。**
- **通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（アイドルアジャスターの誤った調整や、スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。**

JAU27514

ギヤチェンジのしかた

1. シフトペダル
2. ニュートラル

この車はリターン式の 5 段変速です。
ギヤチェンジは、スロットルグリップを一度戻してからクラッチレバーを握り、シフトペダルで操作します。

JCA12032

注 意

- **シフトペダルは、踏みごたえがあるまで確実に操作してください。**
- **クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジは、チェンジ機構の故障の原因になります。**

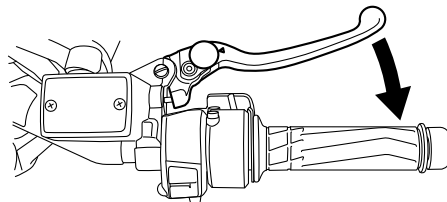
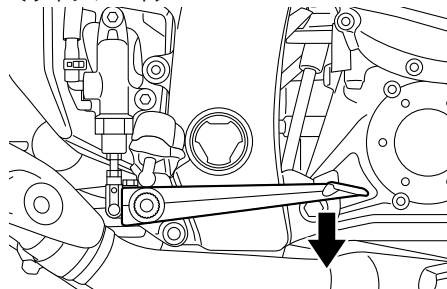
JAU59670

ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にかけます。

＜フロントブレーキ＞

＜リヤブレーキ＞

JWA11573

警 告

- **急なブレーキ操作は避けてください（特にどちらか一方に傾いているとき）。横すべりや転倒の原因となります。**
- **踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。**
- **濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。**
- **下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。**
- **連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。**

要 点

- この車は、ユニファイドブレーキシステムを装備しています。
- ブレーキペダルを踏み込むと、リヤブレーキと部分的にフロントブレーキがかかります。ブレーキ性能を完全に効かせるには、ブレーキレバーとブレーキペダルの両方を同時に使用してください。

JAU31471

ならし運転

JAU27663

ならし運転のしかた

初回 1 か月目（または 1000 km 走行時）の点検までは、ならし運転をしてください。
ならし運転中はエンジン回転数を 5400 r/min 以下で走行してください。
また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。
ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

JAU17214

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜きます。

JWA11582

警 告

- **エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。**
- **草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。**
- **傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。**

点検整備

JAU29839

点検整備の実施

日常点検

4-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1 年点検と 2 年点検の 2 種類があります。定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12055

⚠ 警 告

- **点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。**
- **点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。**
  - **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
  - **エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
  - **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。**
  - **走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。**
  - **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

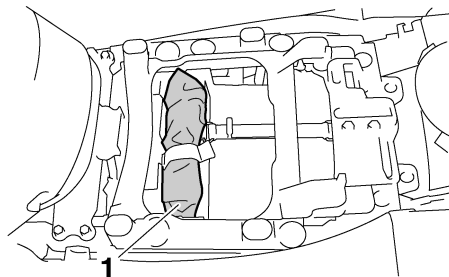
JWA15461

⚠ 警 告

走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

要　点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

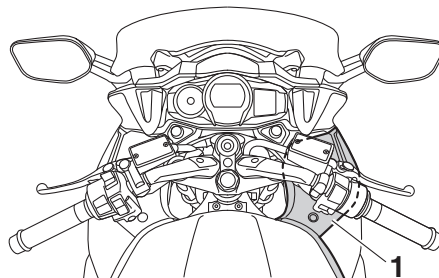
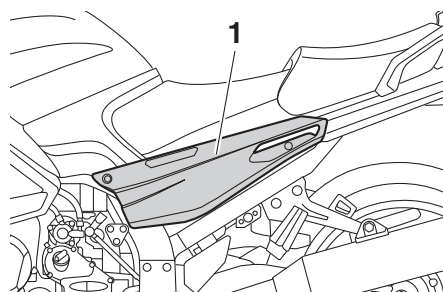
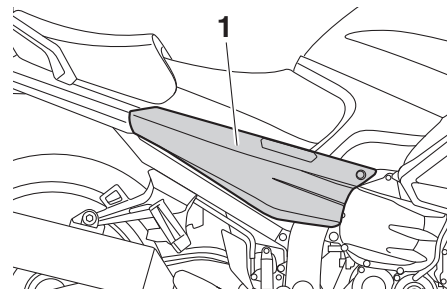
JAU17362

サービスツール

1. サービスツール

サービスツールはライダーシートの下側にあります。(3-26 ページ参照)

JAU18752

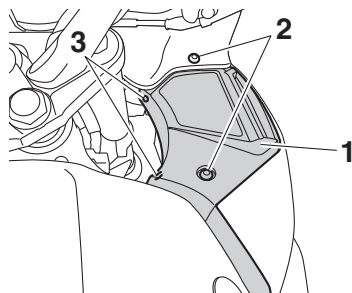
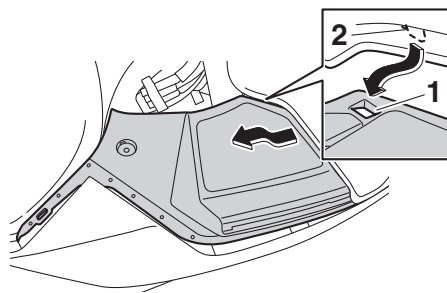
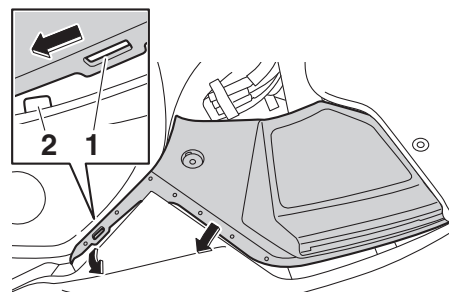
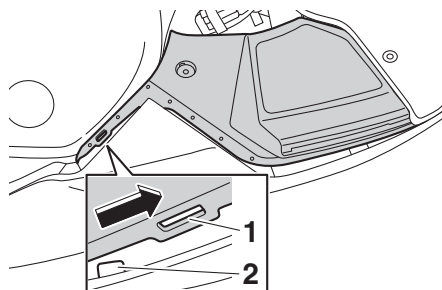
カバーの取り外し、取り付け

図のカバーは、点検整備などで取り外す必要があります。カバーを取り外すときや、取り付けるときは、この項目を参照してください。

1. カバー A

1. カバー B

1. カバー C

JAU54133

カバー A

カバーの取り外しかた

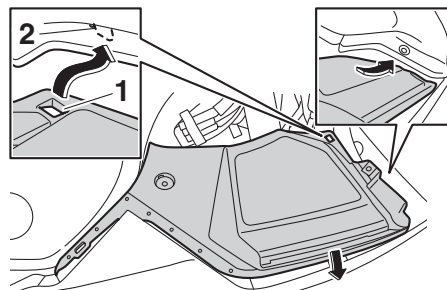
1. ボルトとクイックファスナーを取り外します。

1. カバーA
2. ボルト
3. クイックファスナー

2. 図のようにカバー後ろ側の溝を突起から外します。

1. 溝
2. 突起

3. 図のようにカバー前側の溝を突起から外し、取り外します。

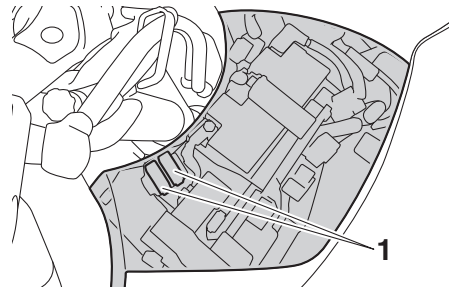
1. 溝
2. 突起

カバーの取り付けかた

1. 図のようにカバー前側の溝を突起に差し込みます。その後、カバー後ろ側の溝を突起に差し込みます。

1. 溝
2. 突起

1. 溝
2. 突起

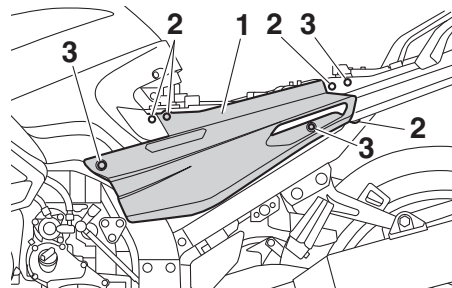
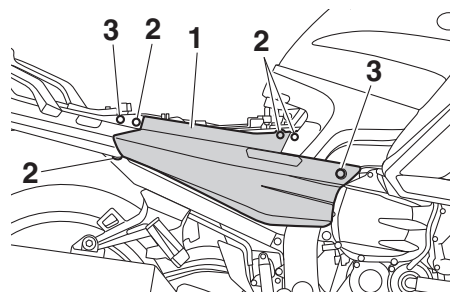
要　点

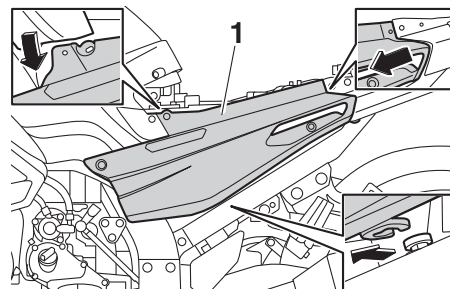
ヒューズがカバーAの内側にあることを確認します。

1. ヒューズ

2. ボルトとクイックファスナーを取り付けます。

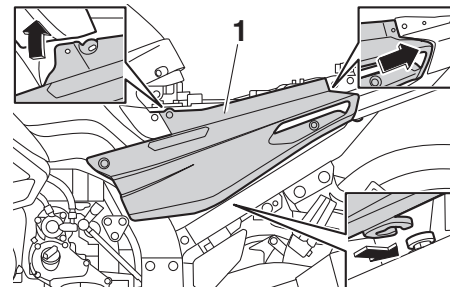
カバー B と C

カバーの取り外しかた

1. ライダーシートとタンデムシートを取り外します。（3-26 ページ参照）
2. ボルトとクイックファスナースクリューを取り外します。

1. カバー B
2. クイックファスナースクリュー
3. ボルト

1. カバー C
2. クイックファスナースクリュー
3. ボルト

3. 図のようにカバー下側を外へ引き抜き、カバー前側を下へ引き抜きます。カバー後ろ側を前側にスライドして取り外します。

1. カバー B

カバーの取り付けかた

1. カバーを元の位置に取り付けてボルトを締め付け、クイックファスナースクリューを取り付けます。

1. カバー B

2. シートを取り付けます。

JAU30455

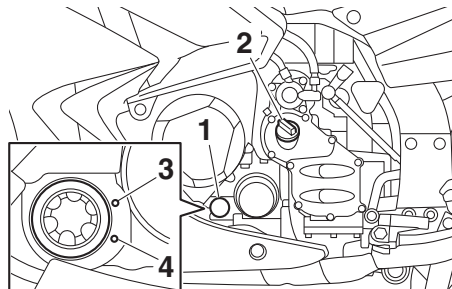
エンジンオイル

エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを2～3分間アイドリング運転します。

要　点

走行直後でエンジンが充分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めてメインスタンドを立て（車を垂直にする)、2 ～ 3 分後、オイル点検窓からエンジンオイル量を点検します。

1. エンジンオイル点検窓
2. オイル注入口
3. フルレベル
4. ロアレベル

3. オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。（推奨エンジンオイルについては、7-3 ページ参照）

JAU47504

エンジンオイルの交換時期

初回：
1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
10000 km 走行ごと、または 1 年ごと
エンジンオイル量：
オイルフィルターカートリッジ無交換時 :
3.80 L
オイルフィルターカートリッジ交換時 :
4.00 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

オイルフィルターカートリッジの交換時期

初回：
1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
30000 km 走行ごと

JWA11861

警 告

- **走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
- **油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。**

JCA12102

注 意

- **化学添加剤は一切加えないでください。またヤマハ純正オイルヤマルーブ FX をこの車に使用しないでください。エンジンオイルはクラッチも潤滑しています。添加剤によりクラッチがすべる原因になります。**
- **補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。**
- **オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。**

JAU30675

ファイナルギヤオイルの交換時期

初回：
1 か月点検時または 1000 km 走行時
2 回目以降：
10000 km 走行ごと
定期交換時オイル量：
0.20 L
推奨オイル：
ヤマハ純正ハイポイドギヤオイル 80W-90 GL-5

JAU30691

エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。
エンジンから異音がしないかを点検します。

JAU44194

低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離したときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱいに切った状態でも同じ点検を行ってください。
- スロットルケーブルに劣化や損傷などがないか点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。
- スロットルケーブルには、ゴムカバーが取り付けられているものがあります。ゴムカバーが確実に取り付けられていることを確認し、洗車時にはゴムカバーに直接水をかけないようにしてください。ゴムカバーの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などでふき取ってください。

JWA15531

警告

ケーブル、ワイヤー類に異常があるときは、早めにヤマハ販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。
スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして

6

点検します。このとき、エンジンストール（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU20071

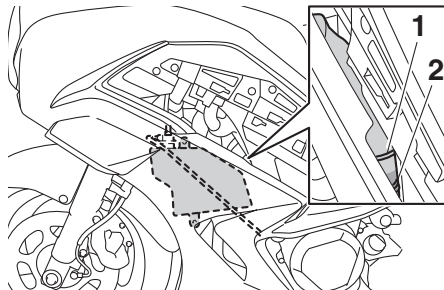
冷却水

JAU54163

冷却水量の点検

要　点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で、車を平坦なところで垂直にして行ってください。

1. カウリングベントパネルを取り外します。（3-32 ページ参照）
2. リカバリータンク内の冷却水量が、フルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。

1. フルレベル
2. ロアレベル

3. 冷却水がロアレベル以下のときは、次の項目「冷却水のつくりかた」「冷却水の補充」を参照して補充してください。
4. カウリングベントパネルを取り付けます。

JAU30804

冷却水のつくりかた

ヤマルーブロングライフクーラントと水道水を 1 対 1 で混ぜ合わせます。

JWA11882

⚠ 警　告

クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

- **目に入ったとき**
  水で充分に洗い流してから、医師の治療を受けてください。
- **皮膚や衣類についたとき**
  すみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。
- **飲んだとき**
  すぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

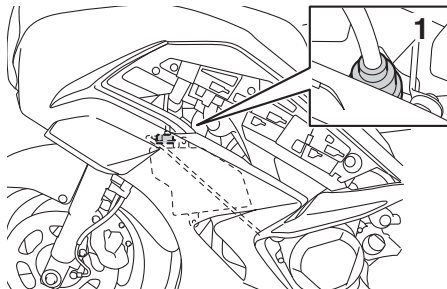
JCA12111

注 意

補充する水は水道水を使用し、井戸水や塩分の含まれた天然水は使用しないでください。

JAU59830

冷却水の補充

1. カウリングベントパネルを取り外します。(3-32 ページ参照)
2. リカバリータンクキャップを開け、冷却水をフルレベルとロアレベルの中間まで補充します。

1. リカバリータンクキャップ

3. リカバリータンクキャップを閉め、カウリングベントパネルを取り付けます。

JCA12121

注 意

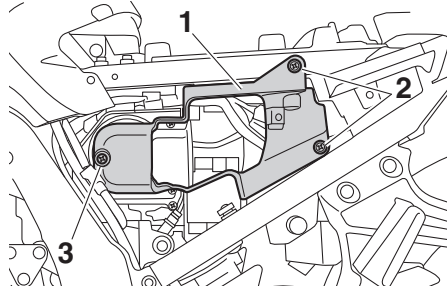
- **フルレベル以上は入れないでください。**
- **冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってください。**

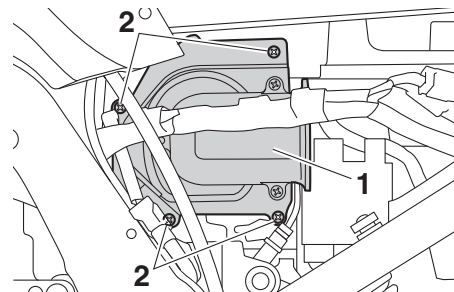
JAU20474

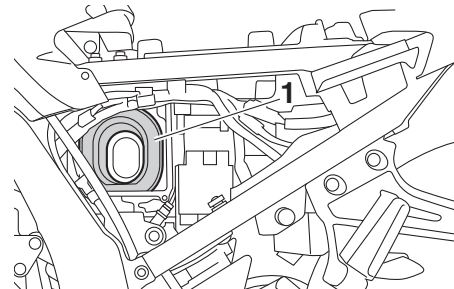
エアクリーナーエレメントの清掃

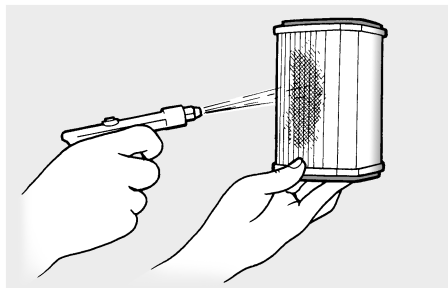
エアクリーナーエレメントは定期的に点検、清掃を行い、ひどい汚れや破れなどがあるときは交換してください。ただし、ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、より短い期間で点検、清掃を行ってください。

エアクリーナーエレメントの清掃

1. カバーＢを外します。(6-2 ページ参照)
2. スクリューとクイックファスナースクリューを外し、エアシュラウドを取り外します。

1. エアシュラウド
2. クイックファスナースクリュー
3. スクリュー

3. スクリューを外し、エアクリーナーケースカバーを取り外します。

1. エアクリーナーケースカバー
2. スクリュー

4. エアクリーナーエレメントを取り外します。

1. エアクリーナーエレメント

5. エアクリーナーエレメントを軽くたたき、ゴミ、ほこりを落とし、エアを図のように吹き付けて清掃します。もしエアクリーナーに損傷がある場合、交換します。

6. エアクリーナーエレメントをエアクリーナーケースに取り付けます。

JCA10482

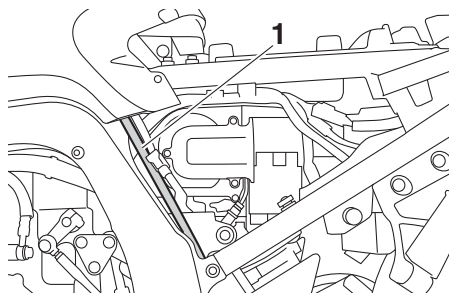
注 意

- **エアクリーナーエレメントがエアクリーナーケースに正しく装着されていることを確認してください。**
- **エアクリーナーエレメントを取り付けないままエンジンを始動しないでください。これを行うと、ピストンやシリンダーの摩耗が激しくなります。**

7. エアクリーナーケースカバーを取り付け、スクリューを締め付けます。

JCA15412

注 意

フューエルタンクブリーザー／オーバーフローホースがはさまれていないことを確認してください。

1. フューエルタンクブリーザー / オーバーフローホース

8. エアシュラウドを取り付け、スクリューを締め付け、クイックファスナースクリューを取り付けます。
9. カバーを取り付けます。

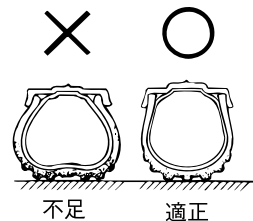
JCA15751

注 意

- **エアクリーナーエレメントの取り付けが悪いと、ゴミやほこりがエンジン内部に入り、摩耗や出力低下を起こして耐久性に影響を与えます。確実に取り付けてください。**
- **洗車時にエアクリーナーケースに水を入れないでください。内部に水が入ると、始動不良などの原因になります。**
- **著しくほこりなどの多い場所を走行したときは、定期点検期間より早めに点検、交換を行ってください。**

JAU31026

タイヤ

空気圧

タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。
空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。

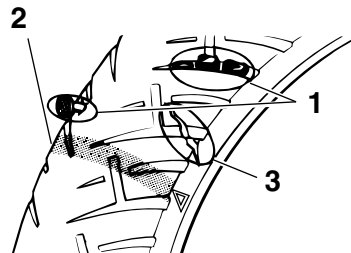
タイヤ空気圧（冷間時）：
1 名乗車：
前輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪：
290 kPa (2.90 kgf/cm²)
2 名乗車：
前輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪：
290 kPa (2.90 kgf/cm²)
高速走行（1 名乗車）：
前輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪：
290 kPa (2.90 kgf/cm²)
高速走行（2 名乗車）：
前輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪：
290 kPa (2.90 kgf/cm²)

要　点

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも 1 か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28642

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

1. 異物（釘、石など）
2. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要　点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28775

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要　点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が 0.8mm になるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪 1.6mm、後輪 2.0mm 以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

⚠ 警告

- **タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや**

前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。
- **過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。**
- **タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**

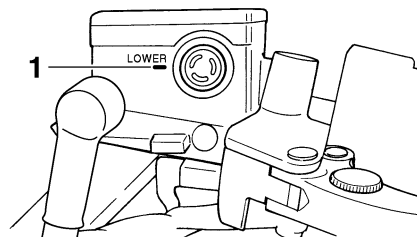
タイヤサイズ：
前輪：
120/70 ZR17M/C (58W)
後輪：
180/55 ZR17M/C (73W)
指定タイヤ：
前輪：
BRIDGESTONE/BT023F F
METZELER/Roadtec Z8
後輪：
BRIDGESTONE/BT023R F
METZELER/Roadtec Z8 C

JAU28891
クラッチ

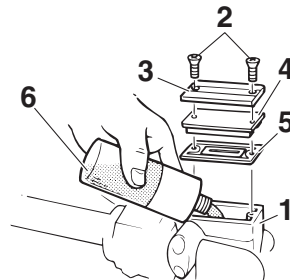
クラッチレバーの遊びの点検
クラッチレバーの遊びは無調整式です。クラッチレバーを手で作動させ、手ごたえを感じるかどうか確認します。

JWA11791
警 告

クラッチレバーの引き具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU29043
クラッチ液量の点検

1. ロアレベル

1. カバー B を取り外します。（6-2 ページ参照）
2. クラッチリザーバータンク上面を水平にして、リザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。

JAU29094
クラッチ液の補給
1. リザーバータンクのまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
2. スクリューを取り外し、キャップとダイヤフラムブッシュ、ダイヤフラムを取り外します。
3. クラッチ液をロアレベル以上補給します。

1. リザーバータンク
2. スクリュー
3. キャップ
4. ダイヤフラムブッシュ
5. ダイヤフラム
6. クラッチ液

4. ダイヤフラムのかみ込みに注意して、スクリューでキャップを取り付けます。

指定クラッチ液：
ヤマルーブブレーキフルード BF-4 (DOT-4)

JCA12342

注 意

- **クラッチ液を補給するときは、リザーバータンク内にゴミや水が混入しないように充分注意してください。**
- **クラッチ液の補給は、入れすぎに注意してください。入れすぎると、ダイヤフラムなどを取り付けたときにあふれます。**
- **液が早く減少するようでしたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**
- **クラッチ液の変質を防ぐため、他銘柄を混入させないでください。**
- **クラッチ液が塗装面やプラスチック、ゴム類に付着すると部品が腐食することがあります。付着したら、すぐにふき取ってください。**
- **クラッチ液は安全のために 2 年ごとの交換をおすすめします。**

JAU31121

ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検

ブレーキの遊びの点検

ブレーキレバーおよびブレーキペダルの遊びは無調整式です。ブレーキレバーおよびブレーキペダルを手で作動させ、手ごたえがあるかどうかを確認します。

JWA11741

警 告

ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。
ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761

警 告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

JAU22283

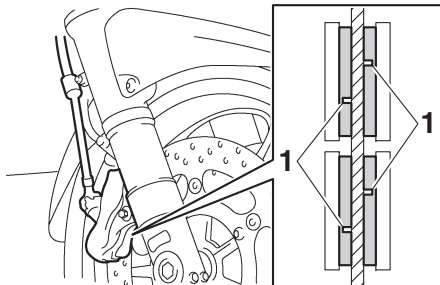
ブレーキランプスイッチ

ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。ブレーキランプスイッチはクルーズコントロールシステムの構成部品なので、異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

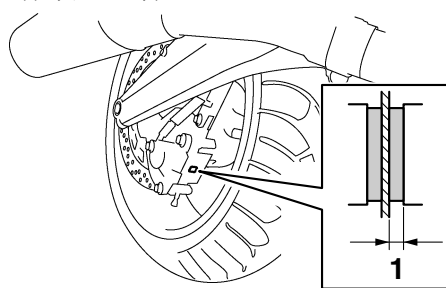
JAU48162

ブレーキパッドの点検

ブレーキパッドの摩耗の状態を点検します。摩耗したブレーキパッドは、ヤマハ販売店で交換してください。

<フロントブレーキ>

1. インジケーター溝

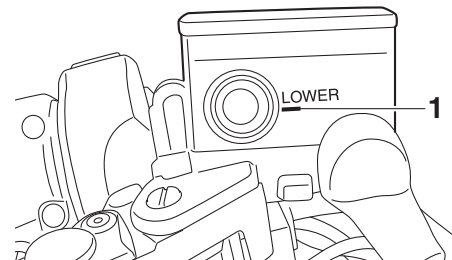
ブレーキパッドのインジケーター溝がなくなったら交換してください。

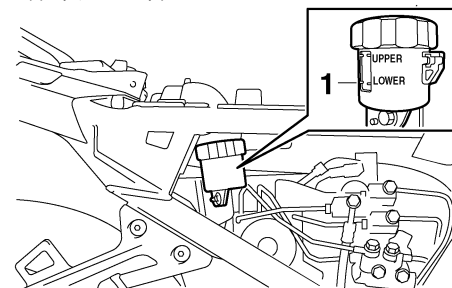
<リヤブレーキ>

1. ライニング厚

ライニングの厚さが 0.8 mm 以下になったら交換してください。

JAU30116

ブレーキ液量の点検

<フロントブレーキ>

1. ロアレベル

<リヤブレーキ>

1. ロアレベル

ブレーキリザーバータンクキャップ上面を水平にして、リザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。
（ブレーキ液の補給は、6-14 ページ参照）

リヤブレーキ液量の点検は、カバーCを取り外して行います。(6-2 ページ参照)

JWA12151

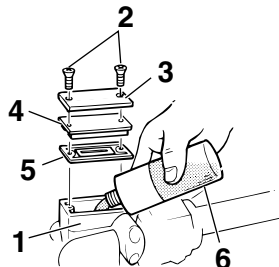
⚠ 警 告

ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。

JAU31265

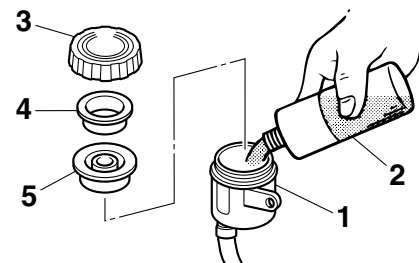
ブレーキ液の補給

<フロントブレーキ>

1. リザーバータンクのまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
2. スクリューを外し、キャップとダイヤフラムブッシュ、ダイヤフラムを取り外します。
3. ブレーキ液をロアレベル以上補給します。

1. リザーバータンク
2. スクリュー
3. キャップ
4. ダイヤフラムブッシュ
5. ダイヤフラム
6. ブレーキ液

4. ダイヤフラムのかみ込みに注意して、スクリューでキャップを取り付けます。

<リヤブレーキ>

1. カバーCを取り外します。(カバーの取り外しは 6-2 ページ参照)
2. リザーバータンクのまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
3. キャップを外し、ダイヤフラムブッシュとダイヤフラムを取り外します。
4. ブレーキ液をロアレベル以上補給します。

1. リザーバータンク
2. ブレーキ液
3. キャップ
4. ダイヤフラムブッシュ
5. ダイヤフラム

5. ダイヤフラムのかみ込みに注意して、キャップを取り付けます。
6. カバーを取り付けます。

指定ブレーキ液：
ヤマルーブ ブレーキフルード BF-4 (DOT-4)

JWA12072

警 告

- **ブレーキ液は、銘柄や性能が異なるものを混入しないでください。銘柄や性能が異なるブレーキ液を混入すると、ブレーキのきき具合やブレーキ系統の部品に悪影響を与えるおそれがあります。**
- **ブレーキ液を補給するときは、リザーバータンク内にゴミや水が混入しないようにしてください。**
- **液面はブレーキパッドの摩耗と共に下がってきます。液が早く減少するようでしたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**
- **ブレーキ液は安全のために２年ごとに交換してください。**

JCA12331

注 意

- **ブレーキ液の補給は、入れすぎに注意してください。入れすぎると、ダイヤフラムなどを取り付けたときに、あふれます。**
- **ブレーキ液が塗装面やプラスチック、ゴム類に付着すると部品が腐食することがあります。付着したら、すぐにふき取ってください。**

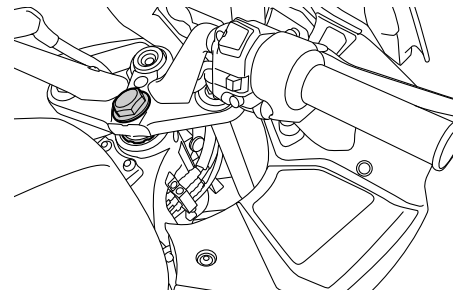
JAU28621

車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。
異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU28651

アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングステム）

アンダーブラケットの締付ボルトまたは締付ナットに、ゆるみがないかを工具で点検します。

締付ボルトまたは締付ナットにゆるみがあるときは、ヤマハ販売店で規定トルクでの締め付けを依頼してください。

JAU28762

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。
バッテリー液の補充、点検は不要です。
バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11811

⚠ 警告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- **火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。**
- **補充電は風通しのよいところで行ってください。**
- **ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。**
- **落下などの強い衝撃を加えないでください。**
- **バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。**
- **子供の手の届くところに置かないでください。**

応急手当

- **万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。**
- **目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。**

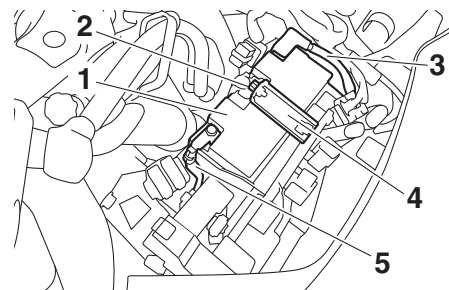
JCA12142

注 意

- **このバッテリーは密閉式の 12 V です。**
- **このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。**
- **補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。**
- **長期間ご使用にならないときは、3 か月ごとに補充電してください。**
- **バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。**

JAU60440

バッテリーの取り外し

1. カバー A を取り外します。(6-2 ページ参照)
2. ボルトを外してプレートを取り外します。

1. バッテリー
2. ボルト
3. ＋リード線
4. プレート
5. －リード線

3. －（マイナス）側リード線を外し、次に＋（プラス）側リード線を外します。
4. バッテリーを取り外します。

バッテリーの取り付け

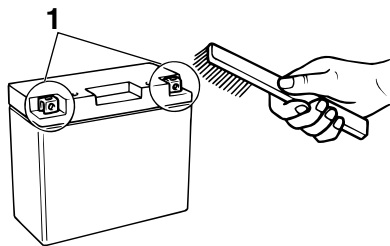
取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

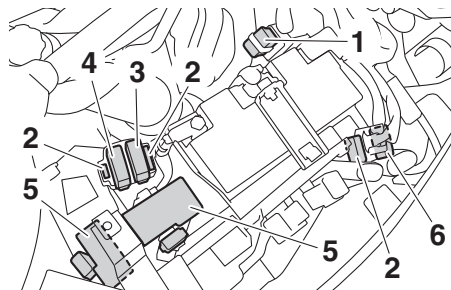
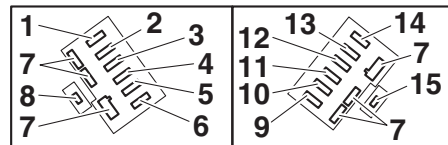
JAU29411

ターミナル部の清掃

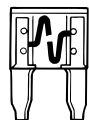
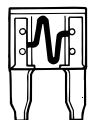
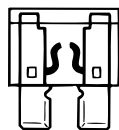
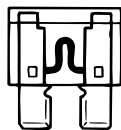
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。

1. ターミナル

JAU54514

ヒューズ交換

ヒューズボックスと系統別ヒューズは、カバーA を外したところにあります。(6-2 ページ参照)

1. メインヒューズ 1
2. スペアヒューズ
3. クルーズコントロールヒューズ
4. ブレーキランプヒューズ
5. ヒューズボックス
6. メインヒューズ 2

1. ABS モーターヒューズ
2. ABS ソレノイドヒューズ
3. フューエルインジェクションヒューズ
4. バックアップヒューズ（時計／イモビライザーシステム）
5. 電子制御スロットルバルブヒューズ
6. ヘッドライトヒューズ
7. スペアヒューズ
8. ハザードヒューズ
9. シグナルヒューズ
10. DC ジャックヒューズ
11. ABS コントロールユニットヒューズ
12. イグニッションヒューズ
13. ラジエターファンモーターヒューズ（右）
14. ラジエターファンモーターヒューズ（左）
15. ウインドシールドモーターヒューズ

ヒューズが切れたときは、以下のように交換します。

1. メインスイッチを OFF にします。
2. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。

規定ヒューズ：
メイン 1:
50.0 A
メイン 2:
30.0 A
ヘッドライト :
25.0 A
ブレーキランプ :
1.0 A
シグナル :
10.0 A
イグニッション :
20.0 A
ラジエターファンモーター :
10.0 A × 2
バックアップ :
7.5 A
ハザード :
7.5 A
フューエルインジェクション :
15.0 A

規定ヒューズ：
ABS コントロールユニット :
7.5 A
ABS モーター :
30.0 A
ABS ソレノイド :
20.0 A
クルーズコントロール :
1.0 A
DC ジャック :
3.0 A
ウインドシールドモーター :
20.0 A
電子制御スロットルバルブ :
7.5 A

JCA12862

注 意

- **交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。**
- **電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。**
- **洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。**

3. メインスイッチを ON にし、電気回路をオンにして装置が作動することを点検します。
4. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

JAU29444

灯火装置および方向指示灯の点検

1. メインスイッチを ON にします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（6-17 ページを参照）し、異常がないときは電球を交換してください。

JCA12063

注 意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（8-1 ページ「製品仕様」を参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

JAU29571

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

6

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。
すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ
お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

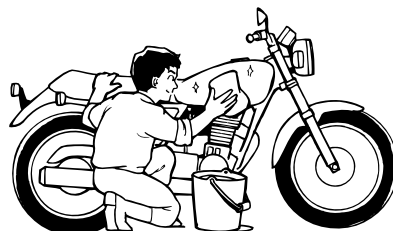
注 意

- **洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。**
- **ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。**
- **コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。**

JAU27795

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、充分に水洗いします。
- 柔らかい布で、車に付着した水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）

JWA11931

警 告

- **洗車はエンジンが冷えているときにしてください。**
- **洗車後、ブレーキのききが悪くなることがあります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。**
- **ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。**

JCA12214

注 意

- **エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。**
- **マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。**
- **ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。**
- **ウインドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが充分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性**

洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。
- **高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。**

要　点

- シートの下方から水を強くかけないでください。内部に水が入り、書類が濡れることがあります。
- 洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

7

JAU28001

アルミフレーム、キャストホイールの取り扱い

日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。
(工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。)
洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。
長期間お手入れをしませんと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

JWA11961

警 告

変形したり、損傷したアルミフレームやキャストホイールは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12221

注 意

- **縁石などに乗り上げるときは、キャストホイールのリムが傷つきやすいので注意してください。**
- **アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを走った後は、すぐに水洗いをしてください。**

JAU28032

カウリングの取り扱い

ご使用上の注意

- 走行前、各部が確実に取り付けてあるか、取付ガタはないかなどを点検します。
- ウインドシールドの清掃は、キズをつけないように中性洗剤を使い、柔らかい布かスポンジで水洗いします。洗車後は、柔らかい布などで水分をよくふきとってください。

JWA11972

警 告

カウリングとハンドルの間に物を置くと、運転操作に影響を与えることがあります。物を置かないでください。

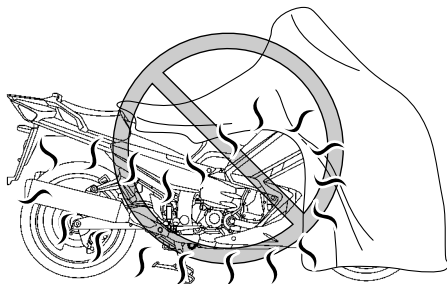
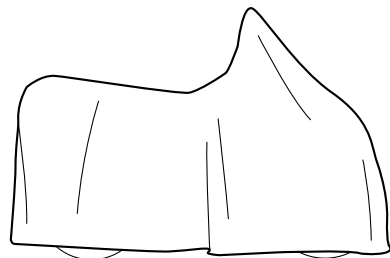
JCA12231

注 意

- **ウインドシールドにガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。**
- **ヒビ割れのあるウインドシールドは使用しないでください。**

JAU35912

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。
なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。

JCA13111

注 意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- **保管する前にワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）サビを防ぐ効果があります。**
- **バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3 か月ごとに補充電を行ってください。**
- **長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。**

※ 補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU28085

アフターケア用品について

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

JAU28114

ヤマルーブプレミアムシンセティック

長期間安定した粘度特性を保ち、高い潤滑性能を発揮させるため、優れたせん断安定性能を実現。また、高温となるエンジン内でのオイルの酸化をハイレベルに抑制。高回転、高負荷下でも高い油膜保持性能を発揮するオイルです。

ヤマルーブスポーツ

高せん断安定性と同時に、高い低蒸発性を実現。オイル消費を抑え、高速走行、ロングツーリングなど過酷な条件下でも優れた性能を発揮するオイルです。

ヤマルーブスタンダードプラス

清浄性、高温酸化安定性を実現。温度に左右されない粘度特性を持ち、過酷な条件にも適しています。カジュアルなタウン走行から、タフな業務使用まで対応するオイルです。

お車の手入れ

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、下の URL を入力してホームページを参照するか、
「ヤマハ　バイク　オイル」というキーワードで検索してください。

http://www.ysgear.co.jp/mc/

ヤマハ　バイク　オイル	検索

寸法 :
全長 :
2230 mm
全幅 :
750 mm
全高 :
1325 mm
シート高 :
805 mm
軸間距離 :
1545 mm
最低地上高 :
130 mm
重量 :
車両重量 :
289 kg
分布荷重（前）:
150 kg
分布荷重（後）:
139 kg
車両総重量 :
399 kg
分布荷重（前）:
173 kg
分布荷重（後）:
226 kg
乗車定員 :
2 名
性能 :
定地燃費（国土交通省届出値）:
24.6 km/L/60 km/h
最小回転半径 :
3100 mm
最高出力 :
108 kW@8000 r/min (147 PS@8000 r/min)
最大トルク :
138 Nm@7000 r/min (14.1 kgf-m@7000 r/min)
エンジン :
原動機種類 :
4 ストローク水冷 DOHC
気筒数・配列 :
直列 4 気筒
総排気量 :
1297 cm^3
内径 × 行程 :
79.0 × 66.2 mm
圧縮比 :
10.8 : 1
エアフィルターエレメント :
乾式エレメント
クラッチ形式 :
湿式多板
変速機形式 :
常時噛合式 5 速
始動方式 :
セルフ式
車体 :
フレーム形式 :
ダイヤモンド
キャスター :
26.00 °
トレール :
109 mm
ステアリングシステム :
ハンドル切れ角（左）:
34.0 °
ハンドル切れ角（右）:
34.0 °
燃料 :
フューエルタンク容量 :
25.0 L
予備容量 :
5.5 L
フロントブレーキ :
ブレーキ形式 :
油圧式ダブルディスクブレーキ
リヤブレーキ :
ブレーキ形式 :
油圧式シングルディスクブレーキ
懸架方式 :
種類（前）:
テレスコピック
種類（後）:
スイングアーム（リンク式）
緩衝方式 :
ショックアブソーバータイプ（前）:
コイルスプリング / オイルダンパー
ショックアブソーバータイプ（後）:
コイルスプリング / ガスオイルダンパー
フロントタイヤ :
種類 :
チューブレス

サイズ :
120/70 ZR17M/C (58W)
メーカー / 銘柄 :
BRIDGESTONE/BT023F F
メーカー / 銘柄 :
METZELER/Roadtec Z8

リヤタイヤ :
種類 :
チューブレス
サイズ :
180/55 ZR17M/C (73W)
メーカー / 銘柄 :
BRIDGESTONE/BT023R F
メーカー / 銘柄 :
METZELER/Roadtec Z8 C

トランスミッション :
1 次減速比 :
1.562 (75/48)
1 速 :
2.529 (43/17)
2 速 :
1.772 (39/22)
3 速 :
1.347 (31/23)
4 速 :
1.076 (28/26)
5 速 :
0.928 (26/28)
2 次減速比 :
2.697 (35/37 x 21/27 x 33/9)

エレクトリカル :
点火方式 :
TCI

ヘッドライト :
ヘッドライト球 :
ハロゲンバルブ

バルブワット数 x 個数 :
ヘッドライト :
12 V, 60.0 W/55.0 W × 2
テール / ブレーキランプ :
12 V, 5.0 W/21.0 W × 2
方向指示灯（前）:
LED
方向指示灯（後）:
12 V, 21.0 W × 2
番号灯 :
12 V, 5.0 W × 1
メーター灯 :
LED
クルーズコントロール "SET" インジケーターランプ :
LED
クルーズコントロール "ON" インジケーターランプ :
LED
マーカーランプ :
LED

パイロットランプワット数 x 個数 :
ニュートラルランプ :
LED
方向指示器表示灯 :
LED
オイルレベル警告灯 :
LED
ヘッドライト上向き表示灯 :
LED
ABS 警告灯 :
LED
エンジン警告灯 :
LED
イモビライザーシステム表示灯 :
LED
トラクションコントロールシステム表示灯 / 警告灯 :
LED

エンジンオイル :
推奨オイル :
ヤマルーブ プレミアムシンセティック、スポーツ、スタンダードプラス

エンジンオイル量 :
オイルフィルターカートリッジ無交換時 :
3.80 L
オイルフィルターカートリッジ交換時 :
4.00 L

ドライブシャフトオイル :
オイル量 :
0.20 L

冷却水容量 :
リザーブタンク（FULL レベルまで）:
0.25 L
ラジエターと全ての経路 :
2.60 L

ケーブルとレバーの遊び :
スロットルグリップ遊び :
1.0–3.0 mm
フロントディスクブレーキ :
パッド厚さ（内側）:
5.5 mm
使用限度 :
0.5 mm
パッド厚さ（外側）:
5.5 mm
使用限度 :
0.5 mm
指定ブレーキフルード :
BF-4 (DOT-4)
リヤディスクブレーキ :
パッド厚さ（内側）:
6.3 mm
使用限度 :
0.8 mm
パッド厚さ（外側）:
6.3 mm
使用限度 :
0.8 mm
指定ブレーキフルード :
BF-4 (DOT-4)
ホイールトラベル :
ホイールトラベル（前）:
135 mm
ホイールトラベル（後）:
125 mm

タイヤ空気圧（冷間時）:
前輪（1 名乗車）:
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪（1 名乗車）:
290 kPa (2.90 kgf/cm²)
前輪（2 名乗車）:
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪（2 名乗車）:
290 kPa (2.90 kgf/cm²)
高速走行 :
前輪（1 名乗車）:
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪（1 名乗車）:
290 kPa (2.90 kgf/cm²)
前輪（2 名乗車）:
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪（2 名乗車）:
290 kPa (2.90 kgf/cm²)
バッテリー :
バッテリー型式 :
GT14B-4
バッテリー容量 :
12 V, 12.0 Ah
点火装置 :
点火時期 (B. T. D. C.):
5.0 ° /1050 r/min
スパークプラグ :
メーカー / 型式 :
NGK/CPR8EA-9
プラグギャップ :
0.8–0.9 mm

ヒューズ容量 :
メイン 1:
50.0 A
メイン 2:
30.0 A
ヘッドライト :
25.0 A
ブレーキランプ :
1.0 A
シグナル :
10.0 A
イグニッション :
20.0 A
ラジエターファンモーター :
10.0 A × 2
DC ジャック :
3.0 A
ハザード :
7.5 A
フューエルインジェクション :
15.0 A
ABS モーター :
30.0 A
ABS ソレノイド :
20.0 A
ABS コントロールユニット :
7.5 A
バックアップ :
7.5 A
クルーズコントロール :
1.0 A
ウインドシールドモーター :
20.0 A

電子制御スロットルバルブ :
7.5 A

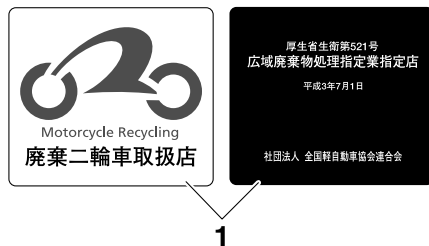
JAU36641

二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

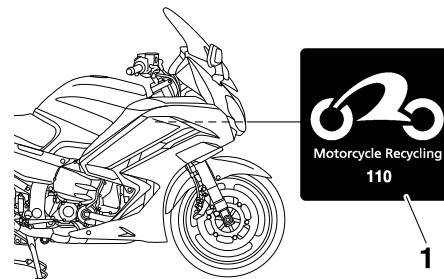
廃棄二輪車取扱店とは？

（社）全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。

1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。
廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。
剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。

1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」または下記へお問い合わせください。
（財）自動車リサイクル促進センターホームページ
http://www.jarc.or.jp/
二輪車リサイクルコールセンター
電話番号　０３－３５９８－８０７５
受付時間　９時３０分～１７時００分（土・日・祝日・年末年始等を除く）

JAU28392

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。
サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

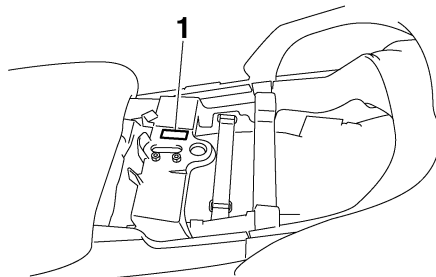
FJR1300A　サービスマニュアル　部品番号：

QQS-CLT-000-1MC

JAU28454

車両情報

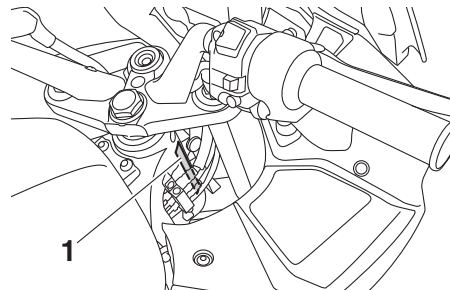
モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。
モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。
モデルラベルは、タンデムシート下のフレームに貼り付けてあります。

1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。

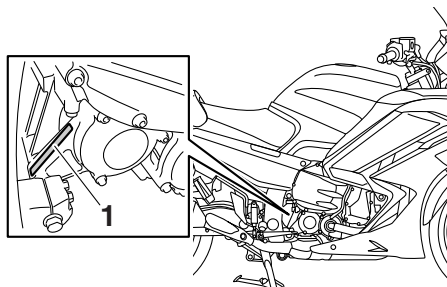
車名は
FJR1300A
モデルラベル
製品仕様を示しています。
○
カラーリングを示しています。
●

JAU50501

車台番号

1. 車台番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU50511

原動機番号

1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

索引

あ

アクセサリーボックス 3-30
あなた自身と同乗者のために 1-1
アフターケア用品について 7-3
アルミフレーム、
キャストホイールの取り扱い 7-2
アンダーブラケットの
取り付け状態の点検
（ステアリングステム）................... 6-15

い

イグニッションサーキット
カットオフシステム 3-37
イモビライザーシステム 3-1

う

運行において異常が認められた
箇所の点検...................................... 6-19

え

ABS 3-22
エアクリーナーエレメントの清掃...... 6-8
エンジンオイル 6-5
エンジン始動..................................... 5-1
エンジンのかかり具合、
異音の点検....................................... 6-6

か

カウリングの取り扱い....................... 7-2
カウリングベントの開閉のしかた.... 3-32
カバーの取り外し、取り付け 6-2
環境・住民の方との調和のために...... 1-6

き

キーの取り扱い 3-1
ギヤチェンジのしかた....................... 5-2

く

クラッチ 6-11
クルーズコントロールシステム 3-6
クルーズコントロールスイッチ 3-21

け

警告灯と表示灯...................................3-3
原動機番号 9-3

こ

小物入れ 3-29

さ

サービスツール...................................6-2
サービスマニュアル（別売）の
紹介..9-2
サイドスタンド...................................3-37

し

シート 3-26
車体各部の給油脂状態の点検...........6-15
車台番号 9-2
車両情報 9-2

す

スターター／
エンジンストップスイッチ 3-21

せ

セレクトスイッチ...............................3-22
洗車...7-1

た

タイヤ 6-9

ち

駐車...5-3

て

DC ジャック 3-39
低速、加速の状態の点検 6-6
D-mode（ドライブモード）.............. 3-19
点検整備の実施 6-1

と

灯火装置および方向指示灯の点検.... 6-19
盗難警報器（別売アクセサリー）...... 3-19
トラクションコントロール
システム... 3-23
トラクションコントロール
システム表示／警告灯..................... 3-4

な

ならし運転 5-3

に

日常点検箇所／点検内容 4-1
日常点検の実施 4-1
二輪車を廃棄する場合は？ 9-1

ね

燃料 3-26

は

バックミラー 3-33
バッテリー 6-16
ハンドル位置の調整......................... 3-31
ハンドルスイッチ............................. 3-20

ひ

ヒューズ交換 6-17

ふ

ファイナルギヤオイルの交換時期...... 6-6
フューエルタンクキャップ 3-25
ブレーキ 5-2
ブレーキ液の補給............................. 6-14
ブレーキ液量の点検......................... 6-13
ブレーキパッドの点検...................... 6-13

ブレーキペダル....................................3-22
ブレーキランプスイッチ....................6-12
ブレーキレバー／
クラッチレバーの握り調整 3-36
ブレーキレバーの遊び／
ブレーキペダルの遊び、および
ブレーキのきき具合の点検 6-12
フロントフォークの調整....................3-33
へ
ヘッドライトアジャスター................3-31
ヘッドライト上下切り替え /
パッシングライトスイッチ 3-20
ほ
ホーンスイッチ....................................3-21
方向指示器スイッチ 3-21
保管のしかた..7-3
歩行者と他の車のために......................1-5
ま
マルチファンクションメーター 3-8
め
メインスイッチ......................................3-2
も
モデルラベル..9-2
ら
ライダーシートの高さ調整................3-27
り
リヤクッションの調整 3-35
れ
冷却水 6-7

つながるバイク

スマートフォンアプリ

バイクライフをサポートするスマートフォンアプリです。

- お出かけスポット・イベント情報の検索やナビなど
- 燃費やメンテナンスなど愛車の情報管理

詳しくは WEB サイトで

つながるバイク

click

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの巻末をご覧ください。

QQS-CLT-101-1MC

再生紙を使用しています

PRINTED IN JAPAN
2014.11-0.3×2 CR
(J)